

天使は瞳を閉じて

作
鴻上尚史

登場人物

男 1 / マスター
女 1 / ケイ
男 2 / 電通太郎
女 2 / マリ
男 3 / ユタカ
女 3 / チハル
男 4 / サブロウ
男 5 / アキラ
女 4 / 天使 2・テンコ
男 6 / 天使 1

第一章

開場された舞台の上には、「災害対策基本法により 立入禁止」の立て看板。
開演と共に、暗転。
文字が映される。

『どこかで また 原子力発電所がメルトダウンを起こした』

音楽が始まり、同時に、「燃料棒破壊」「生物濃縮」「水素爆発」「南海トラフ」「避難勧告」「メルトスルー」「レベル7」

「放射性物質」「ヨウ素131」「ガイガーカウンター」「中央構造線」「帰還困難区域」など、原子力発電所の事故に関する言葉が、次々に映されていく。

そして、沈黙。

暗闇。

やがて、明るくなり、男1登場。

警官のような格好をした男6、反対側からすぐに登場。男6の腰には拳銃。

男6 すみません。ここからは、立入禁止です。

男1 俺は自分の家に帰るだけだ。

男6 残念ですが、今日からは、完全に立入禁止になります。

男1 誰が決めたんだ？

男6 誰って、国の決定です。

男1 国じゃなくて無能な政治家だろ。俺には関係ない。

男1、入ろうとする。

男6 ダメですって

男6と男1、揉め始める。

と、男6が進もうと思う方向から、男4と女1、それに女3が出てくる。

男4はこざっぱりとした事務方の作業服姿。女3は、作業をするに適したジーパン姿。女1は、ややおしゃれな姿。

男4 (女1に) さあ、急いで下さい!

女1 どうして急ぐの? あなたの会社は「ただちに健康に影響が出る量じゃない」って、いつも言ってるでしょ。

男4 もちろん、安全ですよ。ただ、(腕時計を見て) あと10分で完全に立入禁止になるんです。(女3に) さあ、ボランティアの方は先に出て下さい。

女3 ええ……。 (戸惑う)

と、大きなリュックを背負い、女4が男1と同じ方向から登場。そのまま、通過しようとする。

女4 お疲れさまでーす。

男4 すみません。ここからは、立入禁止です。

女4 了解でーす。

と、言いながら、進もうとする。

男4 ちょっと、ダメですって!

女4 聞こえませんか?

男4 えっ?

女4 残されたワンちゃんやネコちゃんの悲鳴が聞こえませんか?

男4 この地区のペットは私共の会社が、責任を持って保護しました。

女4 飼われてない犬や猫は死んでもいいんですか? 捨てられた牛や馬は?

男4 いや、それは……

男1 牛や馬は、俺も助けたいな。

女4 誰です? 特殊な状況を利用したナンパですか?

男1 違うよ。俺も中に入るんだよ。

女4 では、レッツゴー。

男6 立入禁止です! もう時間がないんです!

スーツ姿の男2が登場。(男1が現れた方向から)

男2 本人が自己責任で入るんだ。見逃してやれよ。

文字が映される。

人々は一瞬、ストップモーション。

『どこかで また 政府は メルトダウンを起こした原子力発電所から半径30 kmを放射線管理区域に指定した』

男4 見逃せるわけないでしょう！

男2 どうしてだ？ 原子炉は冷温停止させたんだろう。それとも放射能漏れが止まったつていうのは嘘なのか？

男4 違いますよ！

男2 じゃあ、何故ダメなんだよ！？

女2が小走りに登場。

女2 すみません。すぐに戻ってきます。中に入ったまま、戻って来ない人がいるんです。

男6 気持ちに分かりますが、もう時間がありません。完全立入禁止まで、あと10分ないんです。

女2 恋人なんです。ずっと待ってるのに、戻って来ないんです。必ず帰ってきます。(と、ダッシュユ)

男6 (必死で止めて) だめです！

男5が登場。

男5 電力会社の人はいるかい？

男4 私ですが、何か？

男5 よし、間に合った。中に入るぜ。許可証だ。(と書類を見せる)

男4 許可証？ 何の話です？

男5 何言ってるんだよ。この区域の中に入る人間を募集したのは、あなたの会社だろ。

男4 入る人間を募集！？ 冗談はやめて下さい。

女2 どういうことです！？ 募集ってなんですか？

男4 嘘に決まってるでしょう！

男5 現場は知らされてないのか。じゃあ、もっと偉い人を呼んでよ。

男4 この入り口の担当は私です。他は全員、すでに避難しています。さあ、もう時間がありません！

男5 (男6に) あんたは聞いてるだろ？

男6 いえ。何も。
男5 しょうがないなあ。(許可証を見せながら) じゃあ、入るよ。
男4 ダメです！ 立入禁止なんです。

と、銃声。

全員 !

男3が飛び込んで来る。

女3 どうしたんですか！？

男3 警官が突然、撃ってきたんだ！ どういうことだ！？
男6 なんですって！？

男3 ……あんたも撃つのか？

男6 何をしたんです？ 警官を襲ったんですか？

男3 そんなことするわけないじゃないか。放射能の汚染地区に入りた
って言ったたら、突然、撃ってきたんだ。

男4 汚染地区じゃありません。放射線管理地区です。

女3 言い方を間違えたから、撃たれたの？

男2 そんなバカな。

男1 (男3が走って来た方向を見て) でも、警官の奴ら、近づいて来な
いぞ。

女1 (男6に) どういうことです？

男6 いえ、私にも何がなんだか……

男3 撃たないんなら、入るぜ。

男6 ダメですよ。

男5 俺は入るぞ。許可証があるんだ。(男6に) 撃つなよ。

男4 嘘はやめて下さい。

男5 嘘じゃないよ。これは、実験だよ。

男4 実験？

男5 そう。この中で生活したら、この体がどうなるかの実験。

男4 何、言ってるんですか！？

男5 新しい薬の実験のバイトとか知らない？ 新しい薬飲んで、血とか
取って、体の変化を見るバイト。あれと同じだよ。

男4 そんな危険なこと、放射線でするわけないでしょう！

男5 だから、すごいバイト代なんだよ。

男4 嘘はもういいです！

女1 ホントよ。

男4 えっ？

女1 あたしもそうだもん。（と、許可証を出す）

男4 そんな……。

女1 高い金で電力会社が密かに参加者を募集したの。安全を立証するた
めに。

女4 密かにつてことは、安全に自信がないつてことですよね！

男4 安全ですよ！ 年間20ミリシーベルトまでは絶対に安全なん
です。

女2 だったらどうして黙つて実験するんですか？！

男4 いや、だからそれは……

男2 本当に安全かどうか、統計的に立証されてないんだ。

全員 えっ？

男1 どういうことだ？

男2 低い量の放射線を長時間浴びたらどうなるか、学者の意見は完全
に分かれてる。

女3 分かれてる？

男2 電力会社から金をもらつてるかどうかで、学者の意見は違うんだ。
そんな！？

女4 そんな！？

文字が出る。

人々は一瞬、ストップする。

『どこかで また 原子力発電所から半径30kmの範囲を強
制的に隔離する計画が実行された』

女1 やっぱり、嘘ついてるつてことじゃないの！

男3 嘘でもいいんじゃないの？

全員 えっ？

男3 誰もこの国と電力会社を信用してないだろ。放射能なんてそんな
簡単になくなるはずないつて思つてるし。

女3 （男3に）あなたはこの区域に入りたいんですよね。

男3 ああ。今から入るよ。

男1 なんのために？

男3 死にたいんだよ。

全員

えっ。

男3

首吊るのも、飛び降りるのも、怖いじゃないか。でも、ここで生活してたら、簡単に死ねるんだろ。

男4

違いますよ！

男3

入るぜ。

男5

俺もだ。

女2

私も。

女4

レッツゴー。

男1、男2、男3、男5、女2、女4が入ろうとする。

それを阻止しようとする男4と男6。

女3は、二つのグループのちょうど真ん中で迷う。

女1は、入ろうとするグループの一番後ろで迷う。

男4

入るな！もう時間がないんだ！

男6

だめです！立入禁止です！

男6が拳銃を抜く。

全員の動きが止まる。

男3

……やっぱり、あんたも撃つのか？

男6、一度、構えるが、拳銃を下ろす。

人々が進もうとした瞬間、男4が、拳銃を奪い、人々に向かって構える。

男6

ちよつと！

男4

時間がないんだ！早く出て行け！

女2

どうして入っちゃいけないの？

男4

だから、あなた達の安全のためだ！

男2

中は安全なんだろ。だったら、なんで入っちゃいけないんだ？

男4

それは……。

男3

いい加減、認めろよ。

男4

えっ？

男3

あんたも自分の会社、信用してないんだろ。この中は放射能で一杯

って思ってるんだろ。

男4
違う！

女4
ねえ。よかったら、一緒に犬や猫の世話しない？

と、言いながら、近づく。

男4
来るな！

女4
あなたにも、ワンちゃんやネコちゃんの悲鳴が聞こえるでしょう？

男4
時間がないんだ！

女4
ねえ、

さらに近づく女4。

男4
止まれ！

思わず、引き金を引く男4。

女4、太股を撃たれて崩れる。

全員
！（悲鳴、または、驚きの声）

男6
何するんです！

男6、男4の手から素早く拳銃を奪い、そして、女4に駆け寄る。

男6
…大丈夫ですか！？ 病院に連れていきます！

男6、女4を抱えて、男1が来た方向に去る。

男4
（悲鳴）

男4、自分のしたことに驚き、人々が進もうと思っていた方向に走り去る。と、サイレンが鳴り響く。

女1
何！？

男2
立入禁止の時間だ。

男1
行こうか。

人々
えっ……。
男1 止める奴はいなくなった。

残った人間が歩き始めた時、女1が逆方向に歩き、そして、声を出す。

女1 えっ。なに、これ!?

全員、その声に振り向く。

女3 どうしたの？
女1 出られない。
男2 出られない？

男2、女1の場所まで走る。そして、押す。
そこには、透明な壁。

男2 なんだ、これは!?
女3 何？

女3も近づき、押す。

女3 (透明な壁を感じて) なに、これ!？ 出られないよ！

入ろうとしていた人間達、透明な壁に近づき、それぞれに押す。

男3 どういうことだ!?
男5 なんだ、これは!?
女2 これは、透明な……
女1 壁よ。
男5 壁!?
男1 透明な壁……。
男3 透明な壁。
女2 透明な壁。
男2 これだったのか……。

男5 なにが？ あんた、なにか知ってるのか？

男2 国民に事故を忘れさせ、これからも原発を進めるためのプロジェクトだ。

女1 どういうこと？

男2 原発から半径30kmの境界線を高い壁や鉄条網で区切ってしまえば、それは事故の記憶となり、原発・反政府のシンボルになる。だが、立入禁止区域全体を透明な壁で囲めば、そこに見えるのは、自然溢れる草原だけだ。

全員 えっ……。

男2 この透明な壁は、放射線を通さない素材でできてるんだ。政府と電力会社が、密かに準備してたのはこれだったんだ。

男1 そんな……

字幕が出る。

人々の動きは一瞬止まる。

『どこかで 初めて 原子力発電所から半径30kmがドーム状の透明な壁で取り囲まれた』

女1 (叫ぶ) 誰かー！ 開けてー！ 誰かー！

男5 おーい！ 誰かー！

男2 無駄だ。この透明な壁には、どこにも出口はない。

男1 あんたは誰だ？ どうして、そんなことを知ってるんだ。

男2 私は……ずっと原発は安全だというCMを作り続けた人間だ。

女3 それって犯罪じゃない？

男2 だから、自分の体で、この土地に人間が住めるかどうか、確かめに来たんだ。

女1 まさか、またお金もらった？

男2 お金は、昔、さんざん貰った。

男3 罪滅ぼしってやつ？ それとも死にに来たの？

男2 ……。

男5 (女1に) あんたはお金目当てじゃなかったのか？

女1 私は、参加したら面白い作品が書けるかなって……。

女2 (男5に) 実験って言いましたよね。いつまで続けるんですか？

男5 俺が電力会社から言われたのは、放射能が半減する間だ。

女3 半減する間。どれぐらいなの？

男5 ヨウ素131が8日。コバルト60が5年。
男3 5年!? 5年もいるのか!?
男5 すごい金額なんだよ。
男2 続きがあるだろう。
男5 続き? なんのことだよ。
男2 セシウム137が30年。
男5 えっ?
男2 ラジウム226が、1600年。
男5 はあー!?
男2 プルトニウム239が、2.4万年。ウラン238が45億年。
女2 45億年!?
男5 だまされたのか!? 俺はだまされたのか!?
男2 実験の間はどうしろって?
女1 一ヶ月に一回、管理区域の一番外側に来るようになって。そこで、報告しろって。
男5 ここだよな。ここってことだよな。(外側に) おーい! 誰かいるかー!

男5、透明な壁にぶつかり、弾き飛ばされる。
間

男1 じゃあ、行こうか。
全員 えっ。
男1 ここにじっとしていてもしょうがない。
女1 でも、
男1 放射線の量は分からないが、野菜も魚も取れる。食うことは心配ない。
女2 私は行きます。会いたい人がいるんです。
男3 俺も行くよ。透明な壁の中でも外でも、死ねば同じだ。
男1 死ぬまでに、土と緑の匂いを味わうぐらいの時間はあるだろう。
男3・女1・女3 えっ。
男1 住めば都ってね。
男2 ……街を造るってことですか。
男1 街……そうだな。街を造るか。
女1 街……。
女2 街……。

男5 いいんじゃないの！ 軽く、街、造っちゃいますか？
女3 そのうち、この透明な壁が消えるかもしれないし、
男3 そのうち、放射線にやられて死ぬかもしれないし、
女2 そのうち、桜の花が咲くかもしれないし、
男5 そのうち、放射線が半減するかもしれないし、
男2 そのうち、新しい何かが生まれるかもしれないし、
男1 そのうち、収穫の季節が訪れるかもしれないし、
女1 うん！ 街を造ろう！

音楽。

文字が出る。

『天使は瞳を閉じて』

しばらくして、また、文字。

『そして 気の遠くなる時間が流れた』

暗転。

第二章

光の中に、天使1の姿が現れる。それは、第一章で男6だった男が演じている。

伝統的な天使の格好。天使の羽、白い衣服、頭の上に輪っか。

ただし、サングラスをしている。

天使1はブランコに乗っている。

と、同じくブランコに乗った天使2が登場。第一章で女4を演じた女性。

天使2は、人間の女性の洋服。おしゃれな格好。

そっちはどう？

天1 (手帳を見ながら) よくないね。フンコロガシの事故死が一件とタヌキの傷害事件が二件。

天2 あたしの方は、ものすごいドラマがあったよ。

天1 何？

天2 ヤマアラシのアラ子とアラ太郎。あわや心中未遂！

天1 心中未遂！？ どういうこと？

天2 草食系なのに、肉食系な恋をしているヤマアラシ二頭。突進したまま激しく抱擁し、お互いの針がめりめりと食い込み、心中寸前！
天1 それで？

天2 すぐに、二頭の鼻先に笹の葉をこちよこちよして、くしゃみを起こし、冷静に戻して救済しました！

天1 天使がなんてことするんだよ！ 天使は見つめるだけだって言うてるだろう！

天2 だけど、

天1 だけどじゃない。

天使1、ブランコから降り（ブランコが下がって、降りられるようになる）サングラスを外す。

天1 この際だから言うけど、君、もうちよっと天使らしい格好した方がいいな。

天2 どうして？

天1 そんな格好してるから天使としての自覚が生まれなんだよ。

天2 あんたの格好、変だよ。

天1 トラディショナルって言ってよ。

天2 仕事するなら、楽しくやろうよ。どうせ、周りから見えないんだし、

天1 そんなこと言ってるから、みんな、天使の存在を忘れるんだよ。

天2 みんなって誰？

天1 えっ。

天2 みんなって人間のこと？ 私達の受け持ち区域のどこに人間がいるの？

天1 ではまた、ここで報告しあおう。

天2 天使番号H²（エイチアルファ） 8623。

天1 なんだ、天使番号J²（ジェイベータ） 5734。

天2 それって、ムダよ。

天1 どうして？

天2 だって、ここで報告しあって、報告書作って、誰に届けるの？ 神様、いなくなってもうずいぶんだし、

天1 いなくなってるじゃないよ！

天2 だって、いないじゃない。全人類の哀しみを背負って、死んじゃったのかもしれないよ。

天1 なんてこと言うんだよ！ ああ、神様、天使番号J㊦5734をお許し下さい。

天2 受け持ち区域に人間がいれば、まだやりがいがあるわよ。でも、放射能でやられて人間は全滅。かろうじて生き残っているのが、フンコロガシやタヌキじゃあ、報告ってまったくのムダそのものだと思うわない？

天1 なるほど。では、またここで報告しあおう。

天2 天使番号H㊦8623。

天1 どうしたんだ？ 今日はやけにしつこいぞ。

天2 街を見つけたの。

天1 えっ！？

天2 ここから北に飛んで行った海岸線に、小さな街を見つけたの。

天1 なんだって……

天2 世界中の放射能に負けなかった人間達の街だよ！

天1 ……どうしたいんだ？

天2 決まってるじゃない。行こうよ！

天1 受け持ちの天使がいるだろう。

天2 それがないの。

天1 そんな……。

天2 だからさ、行こうよ！

天1 ……だめだ。

天2 どうして！？

天1 僕達の受け持ち区域はここなんだ。

天2 ここには、人間がないのよ。

天1 でも、フンコロガシやタヌキがいる。

天2 人間を見守るより、表情の分からないフンコロガシやキンタマの大きさだけが自慢のタヌキを見守る方が好きなの？

天1 天使がキンタマって言わない！

天2 どうなの？

天1 ああ。僕はフンコロガシやタヌキを見守るのが好きだね。

天2 嘘！

天1 嘘じゃないよ。

天2 ちよつとだけ、見に行こう。

天1 だめだ。……行けば、きっと後悔するよ。

天2 どうして！？ 行かない方が後悔するよ。

天1 (強く) さ、またここで報告しあおう。
天2 どうして!?

走り去る天使1。
後を追う天使2。
と、結婚行進曲が聞こえて来る。

第三章

ウエディングドレスを着たマリ(女2を演じた)とタキシードを着たユタカ(男3)が幸福な笑顔で登場。
二人を祝福する人達が登場。(何人かは客席から)
マスター(男1)、ケイ(女1)、サブロウ(男4)、チハル(女3)、アキラ(男5)である。

ケイ おめでとう!
マスター おめでとう!
サブロウ 幸せになれよ!
アキラ ひゅーひゅー!
チハル おめでとう!

何人かは、客席の観客にクラッカーをばらまきながら舞台に近づく。舞台は、幸福な結婚パーティーの会場となり、食物が乗ったテーブルやスタンドマイクがセッティングされる。
サブロウは、ムービーカメラでこの風景を撮っている。
全員がクラッカーを持つ。

サブロウ (スタンドマイクの前に立って) さあ、みんな、クラッカー、いよ! (クラッカーを貰った観客に) 今、クラッカーを貰ったのも、何かの縁ですからね。祝福して上げて下さいよー! いち、この、さんだからね(と、フェイント)。いくよー! いち、この、さん!
全員

全員、クラッカーを引っ張る。

全員　おめでとう！

ユタカ・マリ　ありがとう！

サブロウ　それでは、愛のメッセージ、アンド、プレゼントタイム！　なお、タイミングを外して鳴らせなかったクラッカーは、お帰りのさいに出口で必ずお返し下さい！　明日、使います。それでは、二人の出会いの場所になりました、僕達のお店『アンジェリコ』のマスターからメッセージ！

マスター　ユタカ、マリちゃん、おめでとう！　俺からのプレゼントだ！

マスター、白い布に覆われたものを出し、すぐに、布を取る。
(スタッフが結婚式場の格好で押し出すか？)
アキラが、ソーラーパネルを全身に貼り付けて立っている。

マリ　なんですか？

マスター　太陽光発電アキラ君だ！

アキラ　ビバ！　再生可能エネルギー！

マスター　なんと自動的に太陽に向かって角度を変えるぞ！

アキラ　アイラブ太陽！

マスター　屋上に置いて好きだけ使ってくれ！

ユタカ　好きだけって、

マスター　大丈夫だ。アキラは少なくとも半年は屋上にいるから。

アキラ　うん。半年はいるぞ……っておい！

マスター　お店での二次会は、もちろん、無料だあ！　とことん飲んでくれ！

マリ・ユタカ　マスター、ありがとう！

サブロウ　次は僕からのプレゼントです！

サブロウ、釣り竿の先にニンジン垂らしたものを持っている。

サブロウ　さあ、ユタカ、マリちゃん。両方から、このニンジンをかじって下さい。

マリ・ユタカ　えっ？

サブロウ　きれいにかじれば、二人は幸せになります。これは、今、一番新しい愛のおまじないです。

と、講釈を垂れながら、二人に近づくサブロウ。

マリ はい！

ユタカ (微笑みながら) そんなこと言って、かじる瞬間に、さっと釣り竿を上げて、キスさせようとしてるんじゃないのか？

サブロウ ……はっはっはっ。

サブロウ、陽気な笑い声を上げて、二人から離れていく。

全員 おいおいおい。

チハル じゃあ、次は私が、

と、突然、スカーフとサングラスで顔を隠し、コートに身を包んだ女性が包丁を持ってユタカめがけて走ってくる。

女 私の青春を返せー！

ユタカ (よけようとして、尻餅をつき) え、！ 誰？ 君は誰！？

女 動くんじゃないか！ おまんに泣かされたおまんの代表じゃい！ 心中じゃあ！

女、コートの前をはだけると、胸にダイナマイトを何十本と巻きつけている。

全員 ひえっ！

女 おまんの結婚に泣いとるおまんの涙と共に心中じゃあ！

と、次の瞬間、包丁の先の部分を抜き取ると花束に変わる。スカーフとサングラスを取ると、それは、ケイ。

ケイ おめでとう！ それじゃあ、歌を歌います。

全員 ……。

ケイ バタフライ、ナイフ、突き刺して…ん？ なんだ、この静けさは？

サブロウ ……お前はなにを考えてるんだ？

ケイ 何って、みんなで二人を驚かそうって決めたじゃないの。

マスター 「驚かす」の意味が違うだろう。

ケイ えっ！？ あたし、またやっちゃった？ ごめん、ユタカ、マリ。

あたし、芸術家だからさ、常識ないのよ。

マスター・サブロウ・アキラ えっ？（なんておっしゃいました風）

ケイ 喜んでもらえるユニークなやつとずっと考えているうちに（花束を見て）「喜んでもらえる」が消えて（包丁を見て）「ユニーク」が残ったみたい。

ユタカ いいんだよ、ケイちゃん。楽しかったよ。

マリ うん。ありがとう、ケイさん。でも、心配しないで。ユタカが浮気したら、殺すのは私の役目だから。

ケイ まあ、ごちそうさま。

ユタカ おい。

サブロウ さあ、気持ちを新たににして、次のメッセージはチハルです！

チハル おめでとうございます！ 私のプレゼントは、私の作った香水です！

全員 おお！

アキラ チハル、粋（いき）じゃねーか！

チハル 私のオリジナルブレンドです！ マリさん、使ってください。私も使いますから、ユタカさんと私がなにかあってもバレません。

全員 えっ？

チハル あたし、ユタカさんの歌の大ファンでした。ユタカさんは絶対にピロの歌手になると思ってました。それが、こんなことになるなんて……。

マスター チハルちゃん……

チハル だから、ユタカさんの代わりに歌います。予定していた曲よりもつと今の私の気持ちにぴったりの歌です。いきます！（と歌いだす）

サブロウ チハル……酒くさ！ 誰だ、チハルに酒飲ましたのは？

アキラ あ、おれおれ。

マスター チハルちゃんが飲めないの知ってたろ！

アキラ だって、顔色変わんないし、飲みたいって言うし、

ケイ どういうつもりなの？ ユタカとマリちゃんの大切な結婚パーティーなのよ。

マスター・サブロウ 君に責める資格ない。

チハル （歌を歌う）

ユタカ チハルちゃん、ありがとう。歌は好きなんだ。プロじゃなくても、ずっと歌い続けるから。今度はマリと三人で一緒に歌おう。

チハル あっ、ユタカさんが二人。

アキラ うむ。そして記憶をなくし、明日、今日したことを聞かされて、激しい自己嫌悪に陥る。青春の原点だな。

チハル チハル、原点です！

サブロウ さあ、もう一回、気分を新たに、

と、突然、派手な音楽。

電通太郎（男2）が、派手な格好をして、空中ゴンドラに乗って上手の空中から登場。

太郎 ユタカ、マリ、おめでとう！

ユタカ （同時に） 太郎！

マリ （同時に） 太郎ちゃん！

太郎 幸福なイベントのある所、必ず、私が現れる。こんにちは、電通太郎です！

ユタカ どうしたんだよ、それ！

太郎 会社で、新製品のキャンペーン用に作らせたんだ。でも、本当は二人の結婚式用なんだぜ！ さあ、乗ってくれ！

マリ ありがとう！

ユタカ ありがとう、さすがだよ！

太郎 これからが、本番さ。二人に、そしてご出席の皆様にご縁がありますように。五円玉シャワー！

太郎、空中のゴンドラから五円玉をばらまく。

当たると痛い。逃げまどう人々。

全員 ひえー！

太郎 結婚、おめでとう！（とさらに投げる）

サブロウ 太郎！ いいかげん、早く降りてこいー！

マリ 太郎ちゃん、一緒に楽しみましょうよ！

ユタカ そうだよ！

太郎 もういいの？ 残念だなあ。

下手に去るゴンドラ。

ほっとする人達。

ユタカ じゃあ、僕、プレゼントのお礼に歌います。

全員 (歓声)

と、『乾杯』のイントロが始まる。

(歌は変わるかもしれませんが)

全員、ユタカの歌をじつと聞きほれる、はずもなく、次々と歌に参加する。サブロウ、マスター、ケイ、太郎、アキラ、チハルの順番。

歌が盛り上がり、間奏になった時に、突然、テーブルの下から、天使1と天使2が現れる。

天2 いいよね、いいよね。

激しく感動している天使2。

それを複雑な思いで、けれど、微笑みながら見ている天使1。

天2 これが人間よね。幸せよね。やっぱり、フンコロガシとタヌキじ

や、ダメよ。

天1 そうかい……。

天2 ね、来てよかったですよ。

天1 (あいまいな返事)

ユタカが、間奏で話し始める。

ユタカ みんな、ありがとう。こんなにしてもらって、僕は一生、忘れませ

ん。

マリ 本当にありがとう。私達、幸せになります。うんとうんと、

ユタカ・マリ 幸せになります！

全員の合唱、くどいぐらいに盛り上がる。

気がつくと、天使2も力一杯、歌っている。

ただ、感動した天使2は、テーブルにあったお皿とフォークを持って、リズムを取りながら歌っている。

全員、歌いながら、そのお皿とフォークに目がいく。

人間には天使の姿が見えないので、お皿とフォークだけが空中で踊っている。

全員の視線が釘付けになる。だんだんと歌声が小さくなり、ついには止まる。

天使1、天使2が何をしているか、はっと気づき、あわてて、それをひったくりテーブルの上に戻す。
が、すでに全員、沈黙。

天1 何をするんだ！

天2 えっ？

天1 人間には、僕達の姿は見えないんだぞ。

天2 だから？

天1 だからって……人間の目には、こんな風に見えてたんだぞ。

テーブルに置いたお皿とフォークが、スタッフの協力で空中に浮いて、ふわふわと漂う。

天2 なるほど、分かりやすい。

全員、混乱の極致に達している。

全員 ……。

マスター ……太郎、やったな！

太郎 えっ？

全員、とりあえず納得したくて、歓声を上げる。

全員 (歓声)

太郎 えっ、えっ、えっ？

アキラ 太郎さん、震えたぜ！

チハル 太郎さん、吐きそうです！

ケイ さすが、電通はやることが違うわね！

サブロウ 電通にはかなわないよ！

太郎 えっ、えっ、えっ、そうだよ。バレたあ。いやあ、驚かしてごめんね。

マリ ありがとう、太郎ちゃん！

ユタカ さすがだよ、太郎！

サブロウ で、どうやったんだ？

太郎 えっ？ ……いやあ、それは企業秘密だからさ。

ケイ そうよね。で、これからどうなるの？

太郎 えっ？

サブロウ まさか、お皿とフォーク、浮かせてただけじゃないだろう？

アキラ それじゃあ、意味わかんないスよ！

ケイ 分かった！ これが本当のプレゼントね！

太郎 えっ？

ケイ あんな悪趣味なゴンドラは自分が乗って、ユタカとマリは、目に見えないゴンドラに乗って、空を飛ぶのね！

全員 (歓声)。

マリ 素敵！

チハル いいな！ いいな！

アキラ 震えるぜ！

サブロウ 太郎、はやく見せてくれよ！

マリ 太郎ちゃん、ありがとう！

ユタカ 太郎、ありがとう！

太郎 うん。……ていつ！

さて、心優しい天使1、天使2は、それぞれ、必死になって、ユタカとマリを持ち上げようとしています。

天使1がマリ、天使2がユタカ。

人間の目には、二人が浮いたように見えます。

全員 (歓声と拍手)

ユタカとマリを抱えたまま、ぐっと踏ん張る天使1と天使2。

マリ 歌の続きを！ ユタカ！

曲が始まり、全員が歌う。

ユタカとマリを抱えたまま、天使達は会話を始める。

天2 決めた！

天1 なに？

天2 あたし、決めた！

天1 言うと思ったよ。

天2 やっぱり？

天1 たしかに他の天使はいないみたいだ。だけど、ダメだ。僕達の受け

持ち区域はここじゃないんだ。

天2 違うわよ。あたし、天使やめる。

天1 えっ？

天2 あたし、天使やめて人間になる。

天1 何、言い出すんだ！？

天2 もう上から見てるだけの生活なんてつまんない。

天1 自分が何言ってるのか、分かっているのか！？

天2 もう決めたの。

天1 簡単に言うけどね、

天2 (そんなの) 簡単じゃないの。

天1 待てよ。一時の感情で、

天2 さようなら。私のこと、忘れないでね。

天1 待てったら！

天2 私は人間になる！

天使2、ユタカを抱えたまま、叫ぶ。その瞬間、全員の前に天

使2の姿が現れる。

全員 ひえー！

ユタカ (驚きの声)

マリ あなた、誰！？

天使2 (ユタカを抱えたまま) えっ！？ 見えてるの！？

サブロウ だから誰なんだよ！

天使2 あたし……テンコです！

全員 テンコ！？

テンコ(天2) はい、よろしくお願ひします！

ユタカ ね、お願ひがあるの。

テンコ はい、なんでも言っつて下さい！

ユタカ 下ろしてくれる？

テンコ あ、はい。

太郎 君、いつのまにいたの？

アキラ どっから来たの？

テンコ えっ、あの、あっちから！

と、空を指すテンコ。

全員 えっ？

ケイ あっちつてどっち？

テンコ えっ、いえ、あの、つまり、あっちつて言うのは……

マスター まあ、いいじゃないか。二人を祝福に来たんだろう？

テンコ はい！

マスター さあ、ダンスがまだだ。

マリ うん。みんな、踊りましょう！

ユタカ 音楽だ！

音楽が始まり、全員のダンス。

テンコ、驚き、そして、楽しそうに参加する。

それ見ている天使1。やがて、ためらいがちに参加者の中へ。

ダンスが盛り上がり、そして、さらに幸福な時間が始まる。全

員が輪になり、手拍子を始める。

それは、この街の結婚式の儀式のようである。テンコも楽しそ

うに、参加者の輪に加わる。

全員の手拍子が盛り上がった所で、

全員 ケイ！

と叫ぶと、ケイが輪の真ん中に飛び出て、

ケイ 私は絶対スターになる！ スターになってうんと幸せになるー！

全員 サブローウ！

ケイがぴよんと飛びのき、代わりにサブローウが輪の真ん中に出てくる。

サブローウ 僕はみんなに生きる勇気を与えるような番組を作りたい。期待しててね！

以下、同じように、

全員 太郎！

太郎 人へ、社会へ、新しい価値を生むイノベーション！ それが電通太郎の永遠のテーマです！

全員 マスター！

マスター 俺は、俺の店がいつまでもみんなに愛されるのなら、それでいいのだ！

全員 チハル！

チハル 私は私が本当は何がしたいのか、絶対に見つけます！

全員 アキラ！

アキラ いつかこの街を出て行くぞっと！

全員の拍手が一瞬、止む。

アキラ 夢でしょ！ 夢！ マジにとっちゃやーよ！

全員、手拍子を再開し、テンコを見る。

テンコ ……テンコです！

全員 テンコ！

テンコ え、あの、あの……

マリ 夢よ、夢！

ユタカ 知らないの？ 結婚式の幸運をもらって声に出せば、願いが叶うのよ！

テンコ はい、えっと、人間を立派につとめ上げたい！ 哀しいことは報告書に書きたくない。幸せになりたい！

マスター ……なんか分かんないけど、ま、いいか！

全員 ユタカ！

ユタカ 家業を継ぎます！ 幸せになります！

サブロウ まだ歌手に未練があるんじゃないのか？

ユタカ (幸福な微笑みのうちに) 違うよーだ！

全員 マリ！

マリ 死ぬまでユタカと一緒にです！

全員 (拍手と歓声)

天使1も勝手に輪の中に入る。

天1 たとえ、フンコロガシやタヌキに気付かれなくてじっと見守っていい

たい。天使の仕事は見守り、神様に(報告することだから)

サブロウ じゃあ、マスターのお店に出発！

マスター タダで飲みやがれ！
全員 （歓声）

全員、騒ぎながら去る。

残される天使1。

ふっと淋しそうな顔を一瞬見せ、そして、幸福そうな天使の微笑みに戻る。手帳を出して、文章を書き始める。

スクリーンが舞台全面に出てきて、天使1の言葉と共に、同じ文字が映される。

第四章

天1

その街はとても奇妙な街だった。街の人口は半日で数えきれぬほどなのに、あらゆるメディアがそろっている。テレビ局や新聞社のマスメディアからインターネットのソーシャルメディアまである。

人々は食べ物のダイエットに励みながら、猛烈な勢いで情報を食べ続けている。その昔、人間たちはみずからの進化の最終段階を、異様に発達した頭脳と萎え切った身体（からだ）というふうに想像した。人口に反比例して、あらゆるメディアだけが異様に発達したこの街は、街の進化の最終形態なのかもしれない。もうひとつ、奇妙なことに、街はドーム状の透明な膜に覆われている。のっぺりと柔らかく、決して壊すことのできない膜を、街の人達は「透明な壁」と呼んでいる。僕達天使にはなんでもないが、人間達は、そこから外には出られない。ただし、壁の外は強烈な放射能の世界だ。地球規模の地震の結果、アメリカやヨーロッパ、アジアの発電所から大量の放射能が出て、人間と神様の姿をゆっくりと消した。もし、街の人達が外に飛び出せば、結果は明らかだ。世界中の放射能から街の人達を守ったのは、この「透明な壁」らしい。なのに、街の人達は信じられないことに、壁の外に出たがっている。テンコというぶさいくな名前になった天使番号J5734は、マスターのお店の店員に雇われ、なんとか人間の生活に溶け込んだ。街は幸福だ。僕は、書くことがなくて困っている。明日にも、僕は元の受け持ち区域に戻ろうと思う。

スクリーンがなくなる。

そこは、マスターの経営するお店『アンジェリコ』。下手にカウンター。その奥に、二階へと続く階段。途中に踊り場。

上手には、テーブルと椅子が、1、2セット。

中央には、お店の壁に張りつく形で、巨大なテレビのモニター。

全体には、落ちついた雰囲気のお店。

入り口は、上手。トイレは下手になる。(どちらも、ドアは袖の外のイメージ。直接は見えない)

カウンターの斜め奥は、マスターの控室に繋がる。

マスターと太郎がカウンターで楽しく議論している。

テニコはテーブルを拭いている。

人間たちから見えない天使1は、そのまま、椅子のひとつに腰掛ける。

太郎　じゃあ、マスターはダーウインの進化論を信じてないんだ。

マスター　ああ、自然淘汰と突然変異じゃ、『大進化』の説明がつかない。

太郎　じゃあ、進化の原因はなんだと思ってるの？

マスター　よく分からないんだが、ダーウインの理論は『小進化』しか説明できないうって説、知ってる？

太郎　『小進化』しか？　いや、図書館にあるかな？

マスター　ケイちゃんに言えば、調べてくれるよ。

太郎　うん。その説ってさ、

と、太郎の携帯電話がなる。

太郎　(画面を見て) あ、もう。(電話に出て) はい、もしもし。太郎で

す。はい、分かりました。すぐに行きます。

マスター　短い休憩時間だったね。

太郎　バカが多すぎるんだよ。いちいち、僕に聞かないと話を進められな

んだから。

マスター　売れっ子はつらいってね。

太郎　話の続き、忘れないでよ。

マスター　ああ。

急いで、店を出る太郎。

さつきから、二人の話を聞いていたテンコ、うずうずしながら、

テンコ ごほん。『大進化』ってなんのことです？

マスター なんだ、聞いてたのか？

テンコ はい。もう、人間の会話が新鮮で新鮮で。

マスター えっ？

テンコ いえ。で、なんなんです？『大進化』って。

マスター 簡単に言うとなね、ダーウィンって人は、進化は徐々に起こるって言うてるんだ。

テンコ ほおほお。

マスター 羽の色やくちばしの形が変わるのは、ダーウィンの進化論で説明がつくんだ。小さな進化、『小進化』はね。

テンコ ほおほお。

マスター でも、魚に足が生えて陸上上がったたり、爬虫類に羽が生えて空を飛んだりする大きな進化、『大進化』は、ゆっくりとした進化じゃ、説明できないんだよ。

テンコ ほおほお。

マスター 分かってる？

テンコ さあ、どうでしょう。どう思います？

マスター あのね、

と、ユタカが粋なはつぴに鉢巻き姿で、道具を抱えて登場。

ユタカ まいど！ ニコニコ工務店のユタカです！

マスター ごくろうさん！

ユタカ マスター、どこを直すの？ マスターの頼みなら、とつとつやつつ
けちやうよ！

マスター 直すんじゃないんだ。テンコちゃんが来てくれて楽になったし、思
い切って改装しようと思ってるね。

ユタカ えー、俺、この内装、好きだけどなあ。

マスター いや、二階だ。

ユタカ 二階？ どうするの？

マスター 「原っぱ」だ。

ユタカ・テンコ 「原っぱ」？

マスター ああ。子供の頃、遊んだ「原っぱ」みたいな空間にしたいんだ。

ユタカ 大変だよ。「原っぱ」は。虫はわくし、犬はうんこするし。

マスター 譬えだよ。ほら、みんなでお酒のんで、あんまり楽しくて帰りたく

ないなんて時があるだろう。そういう時にさ、朝まで話し込むのもよし、そのまま眠り込むのもよし、なんでもできる自由な空間だ。

マスター、いいじゃないですか。名案じゃないですか。

ユタカ そうかなあ……。

テニコ 今のユタカさんにはピンと来ないでしょうね。

ユタカ なんだよ？

テニコ ユタカさんは、浮気がバレて、家に帰れない時に使えばいいんです。

マスター なるほど。

ユタカ こら、新婚の男に向かって、なんてこと言うんだよ！

マスター・テニコ ほっほっほっ。

と、チハルが入ってくる。

チハル こんにちはー！

マスター いらつしやい。おや、バイトは？

チハル 辞めちゃったの。ユタカさん、こんにちは。

ユタカ (チハルに) よっ。(マスターに) じゃ、マスター、さっそく、二階、見てみるわ。

マスター まず、コーヒーぐらい、飲んでよ。

ユタカ 仕事はぱぱっとやらないとね。

ユタカ、階段に向かう。

テニコ (マスターに) 早く仕事を終わらせて、家に帰りたいんですよ。

ユタカ、階段の踊り場で立ち止まり、

ユタカ テニコちゃん！(格好よくターンを決めて) 恋してないと、太るよ。

テニコ ぐさっ！ 血がどぼどぼっ。

ユタカ、二階の奥へ消える。

マスター (チハルに) 何にする？
チハル ビール、下さい。
マスター ビール？ 大丈夫？ まだ早いよ。
チハル いいんです。

マスター、カウンターの中に入る。
テンコ、チハルに近づき、

テンコ チハルちゃん。
チハル はい。
テンコ どうしてバイト、辞めちゃったんですか？
チハル えっ？
テンコ やりたいこと、なにか見つかったの？
チハル えっ……
マスター テンコちゃん。
テンコ はい。
マスター ユタカにコーヒーでいいのか聞いてきてくれない？
テンコ はい！

テンコ、二階の階段を上がろうとすると、ユタカ、顔を出し、

ユタカ マスター、何部屋ぐらいに仕切るの？
マスター ちよつと待っててくれ。ラフ・デザインがあるんだ。
テンコ ユタカさん。コーヒーでいいですか？
ユタカ 砂糖とミルク、(ポーズを決めて) たっぷりね。

ユタカ、二階の奥へ戻る。
チハル、下手に向かい、ユタカのポーズ姿を見て、下手のトイレに消える。

マスター テンコちゃん。じゃあ、トイレから出てきたら、チハルちゃんにビール。
テンコ はい。

マスター、下手(カウンターの奥)に去る。

テンコ、椅子に腰掛けている天使1に、

テンコ どう、調子は？

天1 (驚いて) 見えるのか!?

テンコ うん。でも、半分、透き通ってる。後ろの風景も見えるよ。

天1 そうか。

テンコ 結婚式の時ははっきり見えたのに、だんだん、ぼんやりしていくみたい。

天1 じゃあ、そのうち、見えなくなるな。

テンコ そうだね。

天1 そうすりや、立派な人間だ。

テンコ ……ごめんね。

天1 ……どう、幸せになれそう？

テンコ もう、充分幸せ。

天1 よかった。

テンコ もう行っちゃうの？

天1 ああ。受け持ち区域に戻らないと。

テンコ そっか。

その瞬間、チハルが下手から出てくる。

チハル 誰かいるんですか？

テンコ 練習！ 私、お客さんとの会話、慣れてないから。はい、ビール。

チハル ありがとう。

チハル、椅子に座る。

下手奥からマスターが顔を出し、

マスター テンコちゃん、奥の部屋のバッグ、知らない？

テンコ あ、片づけました。

マスター どこに？

テンコ えつとですね……

テンコ、カウンターの奥へ行く。

一人になるチハル。階段の奥を見上げ、そして、ビールをぐいと飲む。

ゆっくり立ち上がって、階段を登っていく。
天使1、チハルの雰囲気にはっとし、おろおろする。どうしようかと迷い、結局、チハルを追って二階へ。
誰もいなくなる空間。

と、ケイが陽気で軽快なステップで入ってくる。

ケイ マ・スター！ ……あれ、誰もいないの？ 不用心ねえ。（カウ
ンターの上のリモコンを見つけて） ……テレビでも見るか。

ケイ、リモコンをテレビに向け、スイッチを押す。
中央のテレビから、アキラが武士（？）の格好をして飛び出してくる。

アキラ おうりやー！ すつとりやー！ 突撃！

見えない壁に向かって、突撃している。
後ろから、同じく、武士（落武者姿？）のサブロウ、マイクを
持って登場。

サブロウ みなさん、こんにちは。カルマ・テレビ、『壁を壊そう』の時間が
やってきました。ここ、街外れでは、いつものようにアキラが見
えない壁と戦っています。

アキラ うむ、こしやくな！ こやつ！
果たして壁は壊れるのか？ 壁の向こうには一体なにがあるのか？
アキラにインタビューしてみましょう。アキラさん、壁は壊れそう
ですか？

アキラ だめだろ。

サブロウ どうもありがとうございます。『壁を壊そう』また明日！

アキラ おぼえてろよ！ きっと、壊してやるからな！

アキラ、テレビのフレームの中に戻る。

サブロウ 続いて、『カルマ・エンタテイメントニュース』の時間です。カル
マ・グループは、スペシャル推理ドラマ『恐怖の隣人・犯人は誰
だ？』の製作を発表しました。これは、あらゆるメディアを使った
推理形式のドラマで（見事犯人を当てた方には）

マスターとテンコが出てくる。

マスター いらっしやい。

テンコ いらっしやい！

ケイ こんにちは。

ケイ、リモコンを切る。

サブロウ、話の途中で切られる。淋しそうにちらと三人を見て、テレビの中に去る。

ケイ 不用心よ。誰もいなかったわよ。

マスター チハルちゃんが、いただろ。

ケイ ううん。誰も。

と、ユタカが階段を駆け降りてくる。

テンコ ユタカさん、どうしたんですか？

ユタカ え、いや、忘れ物しちつやて。マスター、また来るわ。じゃ！

と、上手に去る。

マスター ユタカ……。

ケイ どうしたの？

テンコ 新婚だからでしょう。……チハルちゃん、また、トイレですかね。

マスター だろう。(ケイに) ビール？

ケイ いや、今日はコーヒー。

マスター おや。

ケイ ちよつとワケありでね。

テンコ いい話？

ケイ たぶんね。

と、弁当を持ったマリが幸福感満載で入ってくる。

マリ ユタカ〜カ〜。

テンコ あれ、たった今、帰っちゃいましたよ。

マリ 嘘う！ 嘘う！

マスター なんだか、忘れ物だつて。

マリ せっかく、お昼のお弁当、持って来たのに。

テンコ また、戻ってくるんじゃないですか？

マリ マスター、ユタカ、どこ直したの？

マスター まだだよ。二階を改装してもらおうと思つてね。

マリ 二階に行つてもいい？

マスター いいけど、どうして？

マリ ユタカの職場を見たいの。

マスター・テンコ まあ。

ケイ ひゅーひゅー。

マリ (階段を上がりながら) ねえ、ケイさん。

ケイ (グラスの水を飲みながら) なに？

マリ 結婚したら？

ケイ ! (飲んでいた水を吐き出す)

その水は正面に立っていたマスターの顔に、勢い良くかかる。

マスター・ケイ ……。

マリ ごめんなさい。ケイさんには、大きな夢があったもんね。

ケイ (マスターの濡れた顔を見ながら) オーケー、オーケー、イツ・

ノー・プロブレム。

マリ 素敵な曲、できた？

ケイ イエス。愛の歌ですばい。

マリ 今度、聴かせて。

ケイ そのうち、テレビやラジオで聴けるつて。

マリ うん。ユタカと一緒に聴く。

マスター・テンコ・ケイ ……ごちそうさまでした。

マリ 二階に行くね！

マリ、階段を踊り場まで行く。

と、そこに、チハルが出てくる。

鉢合わせするマリとチハル。

テンコ チハルちゃん。二階にいたの！？

チハル え、ええ。

テニコ どうして？

チハルの後ろから、複雑な顔をした天使1が出てくる。

チハル ちょっと、ユタカさんに呼ばれて。

他の人達（ケイ以外） えっ？

天1 いや、そんなこと言ったら……

チハル あの、ユタカさん、お水を飲みたいって言うから。

テニコ お水……

マスター 持っていてくれたんだ。ありがとう。

チハル マスター、私、帰ります。（テーブルにお金を置くアクション）さようなら。

マリ、去るチハルを見つめる。

チハル、去る。

全員、チハルの態度に戸惑っている。

マスター （マリに）ユタカの職場は、二階全部だよ。

マリ えっ？（微笑んで）うん。

マリ、二階の奥へ消える。

テニコ マスター、

と、サブロウの笑い声。

そして、サブロウが刑事スタイル（？）で登場。

サブロウ じゃまするよ。

カウンターまで来て、

サブロウ イソジン。お湯割で。

と、太郎が登場。

太郎 犯人はお前だ！

サブロウ 違う！俺は犯人じゃない！

というわけで、爆笑ギャグが展開された後、
サブロウ、倒れる。

太郎 カット！

サブロウ・太郎 どうかな、これ？

マスター・テンコ ……

サブロウ だめか。太郎、やっぱり、スペシャルドラマにギャグ入れるのやめよう。

太郎 くじけるな！寒さの向こうに、笑いの女神はきつと待っている！

サブロウ・太郎 おっし！

ケイ ごほん。曲、聴いてくれた？

サブロウ あらあ、ケイちゃん、もう来てたの。

ケイ はい。私は時間に几帳面なロッカーですから。

サブロウ それがね、僕はいいと思っただけど、

ケイ ほおほお。

サブロウ、太郎を見る。

太郎 あのね、ケイちゃんの歌にははっきりとした主張があるだろ。

ケイ メッセージです。

太郎 うん。メッセージはいらないんだ。もっと、ポップじゃないと。

ケイ ポップ！？

サブロウ でね、テーマ曲はもう決まっちゃったの。許してちよーだい！

ケイ えっ、決まっちゃった！？

サブロウ それより、主役が問題なんだよ。

ケイ えっ？

太郎 ドラマのヒロインを捜してるんだよ。

ケイ え……いやあ、それは困るなあ。私は歌の人間ですし、ロッカーですから、

サブロウ だろう。困っちゃってんだよね。

マスター なんの話だい？

サブロウ テレビ見てくれてないの？全く新しい番組が始まるんだよ。その名も、

サブロウ・太郎 スペシャル推理ドラマ『恐怖の隣人・犯人は誰だ？』！

サブロウ 同じドラマが、テレビ、ネット、新聞、雑誌、スマホで同時にスタートするんだ。

太郎 しかし、犯人は誰か、テレビだけでは分からない。
サブロウ ネットだけでも分からない。

太郎 メディアによって視点が変わり、
サブロウ 証言する人も変わる。

テンコ 面白そうですね。
サブロウ だろう。カルマ・グループの会長なんか、大喜びでさ。これから

太郎 は、どしどし、この方法でいくつて。
ま、クロスメディア戦略を権力主体を明確にしないまま、メディア

サブロウ ミックス的視点で、マルチメディアに展開させてみたんだよね。
な、何言ってるか、全然、分からないんだけどさ。

太郎 どうして、もっと早く思いつかなかったのか。それが悔しくてね。
マスター 太郎、そんなことして大丈夫なのか？

太郎 えっ？ マスター、どういうこと？
マスター いや、つまり、あらゆるメディアが同時に同じ方向を向くつての

太郎 は、危険なんじゃ……
推理ドラマだよ。最高の遊びさ。

サブロウ で、テーマ曲は決まったのに、主役がいらないんだよ。
ケイ それは困ったわね。

と、マリ、階段の踊り場に現れる。

マリ マスター、ユタカ、ここでこんなことしなかった？

と、マリ、踊り場でターン。

スカートがふわりと舞う。

テンコ しました。

マリ でしょう。ユタカのこととはなんでも分かるの。

太郎 (マリを見て) いた！

ケイ だから、困るのよ。

サブロウ えっ……そうか、その手があったか？

ケイ だから、困るの。

サブロウ 話題性も抜群だし、さすが太郎だ。

ケイ しょうがないわね。オーケー、オーケー、イッツ、

サブロウ マリちゃん、女優にならないか？

ケイ ヘ・い・びー・ぷろぶれむ！

マリ えっ、なんのことです？

太郎 じつは、かくかくしかじか。

マリ 困ります。私、そういうのできません。

太郎・サブロウ 大丈夫、大丈夫。

マリ ユタカが反対します。

サブロウ とんでもない。反対に喜ぶよ。

太郎 ドラマのテーマ曲、ユタカの曲だから。

マリ・ケイ・テンコ・マスター えっ？

サブロウ ポップなんだ。

マリ そんな、そんなこと、ユタカは一言も。

サブロウ 急だったからね。さ、詳しい話は後だ。さっそく準備にかかろう。

マリ ダメです。やめて下さい。

太郎 ユタカの歌がテーマのドラマに出るんだよ。これこそ、愛の究極、きつとユタカも喜ぶよ。

マリ えっ。

サブロウ さ、急いだ、急いだ。

太郎、サブロウ、強引にマリを連れ去りかける。

マスター サブロウ、なんか飲んでったら？

サブロウ マスターも推理ドラマ、期待しててね。

マスター 太郎、さっきの話の続きをするかい？

太郎 マスター、悪いけど、今、俺は電通の太郎なんだ。

マリ (混乱して) あの……

太郎、サブロウ、マリを連れて去る。

テンコ ……私、ユタカさん、捜してきます！

テンコ、店を飛び出す。

天使1も、ためらい、後を追う。

マスター ……何か飲むかい？

ケイ ビール、プリーズ。

マスター (カウンターからビールを取り出して) ほい。

ケイ ……いい曲なんだ。自分が神様に選ばれてると思ってる女の子の歌。でも、ある日、彼女は初めて疑うの。私は違うかもしれないって。その瞬間、彼女は悲鳴を上げるの。

と、上手より、アキラがSMの女王の格好で、鞭を振り回しながら、飛び込んでくる。

アキラ (奇声)

ケイ ひえっ。

アキラ (辺りを見回し) マスター！ お客なんかいないじゃない！

マスター タイミングが悪いんだよ。

アキラ なんのために、こんなの借りてきたと思ってるの？

マスター いやあ、すまんすまん。

ケイ 何やってるの？

アキラ 声に愛がないよ。バイトだよ、バイト。旅行用の資金稼ぎだよ。マスターが、お客が喜ぶって言うから。

ケイ バカなの？

アキラ 傷つくなあ、その言い方。僕ってね、信じられないぐらい傷つきやすいんだよ。笑顔でごまかしてるだけなんだから。

マスター うんと傷つきなさい。傷つけば傷つくほど、人に優しくなれるのだから。

アキラ ……(照れる)

マスター (ひよいとケイを見て) そしたら、いい曲をいっぱいかけるよ。

ケイ うん。ありがとう。

アキラ だから、人をダシにして素敵な会話しないでよ。

マスター さあ、ショウタイムの時間だぞ。

アキラ だって、お客さん、一人しかいないじゃない。

ケイ いいの、いいの。人生、これまた、終わりのないショウよ。

マスター イッツ、

マスター・ケイ ショウタイム！

音楽がかかる。

三人、楽しそうに踊り始める。

そのまま、踊りながら、下手にはける。同時に、お店の装置も消え、上手からユタカとマリが登場。

そこはそのまま、ユタカとマリの新居となる。

○ユタカとマリの新居

天使1もユタカとマリにつきそって登場。

マリ ユタカ、私の目を見て。

ユタカ 吸い込まれそうだよ。

マリ どうして黙ってたの？

ユタカ えっ、なんのこと？

マリ とぼけてもダメ。

ユタカ なんのことだよ。

マリ ユタカ、まだとぼけるの？

ユタカ えっ。

マリ 歌のことよ。

ユタカ 歌……ああ、歌か。

マリ どうして黙ってたの？

ユタカ マリ、ごめんよ。まさか、今頃になって採用されると思わなかった

んだよ。

マリ どういうこと？

ユタカ 結婚する前に、最後の記念に作った曲を太郎に渡したんだ。そした

ら、今頃になって、

マリ いいじゃない。

ユタカ えっ？

マリ 素敵じゃない。やっぱり、ユタカ、才能あったのよ。もう、ちゆ

き、ちゆき！

ユタカ ……照れるじゃないか。

部屋の片隅にいる天使1、そのやりとりを見つめて、思い切り、照れている。

マリ でも、ダメ。

ユタカ えっ？

マリ 隠し事しちゃ、ダメ。

ユタカ ごめんよ。

マリ ダメ。許さない。

ユタカ どうしたら許してくれるの？

マリ それはユタカが考えるの。

ユタカ えゝ困ったなあ。

マリ 考えるのゝ。

ユタカ マリゝ許してよゝ

マリ ユタカゝ許さないゝ

ユタカ マリゝ許してよゝ

マリ ユタカゝ許さないゝ

天1 こらあー！ 天使も怒るでほんま！

マリ 聴かせて。

ユタカ えっ？

マリ 歌。

ユタカ え……恥ずかしいよ。

マリ ユタカの全部が知りたいの！ 結婚前に作った歌なんですよ。愛の

歌なんですよ。

ユタカ マリゝ許してよゝ

マリ ユタカゝ許さないゝ

ユタカ マリゝ許してよゝ

マリ ユタカゝ許さないゝ

天1 歌えよ！ 歌わないなら、やれよ！ ズルツ、ドバー、ピューー！

こんだけだろ！ 歌うかやるか、はつきりしろよ！

マリ 音楽！

ユタカ、歌い始める。

『サヨナラ』

ユタカ サヨナラ 僕の夢

マリ サヨナラ 僕の歌

ユタカ サヨナラ 僕の未来

マリ サヨナラ 僕の過去

僕は僕を捨てて 退屈を手に入れる

僕は僕を裏切って 生活を始める

世界は終わらない ただ僕が終わる

夢は消えない ただ僕が消える

サヨナラ バラ色の夢

サヨナラ 輝く歌
サヨナラ 遙かな未来
サヨナラ すべてにサヨナラ

マリは、最初、楽しく聴いていたが、歌詞の内容につれて、だんだん、哀しい顔になってくる。
天使1は、マリの変化にオロオロし、マリに近づき、肩に手を乗せるかどうか、迷う。
曲が終わる。

その瞬間、太郎とサブロウが陽気に飛び出して来る。
そこは、テレビ局のスタジオになる。

○テレビ局のスタジオ

太郎・サブロウ ぶらぼう、ぶらぼう！ 最高！ ユタカちゃん、天才！
ユタカ どうも。

太郎 さ、マリちゃんも準備だよ。さっそく、リハーサル、入るからね。
マリ はい。

サブロウ ユタカちゃん、すごいよ。もうファンが花束もって来てるよ。

ユタカ えっ？

サブロウ ファン第一号、カモン！

チハルが、花束を持って下手から登場。

ユタカ ……。

チハル がんばって下さい。

ユタカ ありがとう。

サブロウ さ、スタジオ、スタジオ。チハルちゃんも、ちよつとのぞいていく？

チハル えっ、いいんですか？

サブロウ ちよつとだけならいいだろ、ユタカ。

ユタカ いえ、あの、集中したいので。

サブロウ そう？ じゃあ、スタジオへゴー！（と下手へ）

ユタカ はい。

太郎 さ、マリちゃんも行こう。（上手へ）

マリ はい。ユタカ。

ユタカ (去る直前) えっ？
マリ がんばってね。
ユタカ ああ。マリもな。
マリ うん。

ユタカ、去る。
マリ、去る。
チハルも同じ方向に去る。

サブロウ 最高だな。

太郎 えっ？

サブロウ ユタカの歌だよ。

太郎 ああ。最高だ。

サブロウ 次のスペシヤルもユタカの曲でいくか？

太郎 いや、彼はたぶん、今回だけだな。

サブロウ えっ？ どうして？

太郎 今が旬だな。もうすぐ、旬は終わる。俺のカンだと、ここまでの。

サブロウ だって、いい曲、作ったぜ。

太郎 歌手を諦めたから出来たんだよ。誰にだって自叙伝は書ける。だが、後はもうない。そういうことだ。

サブロウ そんな…：そうだよなあ。どうも、一発屋ってカンジだよなあ。

太郎 スペシヤルは、オーディションの方がいいと思う。ま、プロデューサーのお前の自由だけど。

サブロウ もちろん、もう準備してるよ。

太郎 そうか。

太郎の携帯が鳴る。

太郎 はい、もしもし。はい、すぐにかがいます。じやな。

上手に去る太郎。

その背中を見つめるサブロウの顔、ふっと曇る。

サブロウ、下手に去る。

天使1、ゆっくりと手帳を出す。

スクリーンが現れて、文字が映される。

第五章

天1

それから、気の遠くなる時間が流れた。天使は変わらない。でも、人間は変わる。太郎のクロスメディア企画は大当たりし、ユタカの歌も大ヒットした。そして、ユタカの歌に対する興味をみんな失った。わずかの時間で強引に街に溢れたものは、その半分の時間でいとも簡単に忘れ去られる。カルマ・グループの会長は太郎の提案したクロスメディア戦略をさまざまな形で使うようになった。マリの演技は好評で、サブロウは次々とマリを使ってドラマを作っている。

ケイは五回、曲を売り込み、五回ともうまくいかなかった。

チハルは、一度やめたウエイトレスのバイトに戻った。

アキラは毎日、壁に向かって突撃を繰り返している。

マスターの店にみんな集まり、テンコは相変わらず、楽しく働いている。

街は幸福だ。僕は書くことがなくて困っている。

明日にも、僕は懐かしい受け持ち区域に戻ろうと思う。

天使1の言葉が終わり、スクリーンがなくなると、そこは、

『アンジェリコ』。テンコがテレビを見ている。

テレビでは、アキラが妙な格好をして、見えない壁に突撃している。

アキラ

おうりゃー！ すつとりゃー！ 突撃ー！

マイクを持ったユタカが登場。三流のコメディアンのようなケバケバしい格好をしている。

ユタカ

みなさん、こんにちは！ カルマ・テレビ『壁を壊そう』の時間がやってきました。司会はおなじみ、ロックンローラー、ユタカです。さあ、ここ街外れでは、毎日毎日、アキラが見えない壁に向かって突撃を繰り返しています。壁は果たして壊れるのか。壁の向こうには、いったい何があるのか。アキラさん、壁は壊れそうですか？

アキラ

だめだろ。

ユタカ どうもありがとうございます。『壁を壊そう』また、明日！
アキラ 覚えてろよ！ きつと壊してやるからな！

アキラ、去る。

陽気なステップでケイがお店に入ってくる。

ケイ マ、ス、ター！

テンコ いらっしやい！

ケイ あれ、マスターは？

テンコ 二階。気分が悪いんだって。

ユタカ 続いて、『カルマ・シヨツピング』の時間です。今日、ご紹介するのは、エコ型腹筋マシン『割れる！ 腹筋君』です。

ユタカ、珍妙な器具と一緒に腹筋運動を始める。

テンコ ユタカさん、何考えてるんだらう。

ケイ 何って？

テンコ だって、こんなことして、

テレビからサブロウが飛び出してくる。

サブロウ 臨時ニュースです。本日3時30分、カルマ・グループの会長が狙撃されました。会長は命は取りとめました但が重体、ただちに、カルマ中央病院に運ばれました。繰り返しします。カルマ・グループの会長が狙撃されました。犯人は分かっております。会長は、カルマ中央病院に緊急入院、絶対安静となっております。現在、警察は全力を上げて、犯人を捜査中です。

サブロウ、去る。

ユタカ、どうしていいか戸惑い、

ユタカ ……ご注文、お待ちしています。

と言って、そそくさと去る。

テレビを消す、テンコ。

テンコ どうして、こんなことするんだろ？

ケイ どうしてって……

テンコ カルマ・グループの会長さんで、大統領選挙に出るんでしょ。関係、あるのかな？

ケイ そうかもねえ……。

マスター いらっしやい。

二階の踊り場にマスターが立っている。

ケイ こんにちは。大丈夫なの？

マスター ああ。寝たら楽になったよ。

テンコ マスター、じゃあ、ちよつとでてきていいですか。太郎さんと約束があるんです。

マスター いいよ。

テンコ、去る。

マスター 何か飲むかい？

ケイ (楽しそうに) ビール、プリーズ。

マスター はいよ。おや、楽しそうじゃないか。

ケイ 分かる？

マスター どうしたの？

ケイ 私ね、ビデオグラフィアになるの。

マスター ビデオグラフィア？

ケイ 映像作家よ。うふ。じゃーん！

と、ケイ、DVDを出す。

ケイ 私の作品、見てくれる？

マスター ああ。

ケイ、DVDをセッティングするアクション。

ケイ 自分で言うのもなんだけど、傑作よ！

音楽がかかる。

テレビのフレームの中から、テンコが天使の格好で登場。とても大きな羽をつけて、満面の微笑み。

テンコ おはよう！ おはよう！ おはよう！（と、あいさつを続ける）

マスター ……なんだい？

ケイ 題して『天使はあなたを見つめている』！ テンコちゃんに協力してもらったの。

テンコ、満面の微笑みで挨拶を続けている。

テンコ おはよう！ おはよう！ おはよう！

マスター この後、どうなるんだい？

ケイ このままよ。余計な表現は全部、削ぎ落としたの。ね、素敵でしょう。見てて、優しい気持ちになるでしょう。

マスター ……う、うん。そうだね。

ケイ いいでしょう。第二部、見る？

マスター 第二部があるんだ。

ケイ 早送りね。

ケイ、リモコンのボタンを押す。

割烹着を着た主婦姿のアキラが出てくる。

ケイ アキラにも協力してもらったの。

アキラ どうしよう！

テンコ 大丈夫。

アキラ どうしよう！

テンコ 大丈夫。

アキラ どうしよう！

テンコ 大丈夫。

アキラ どうしよう！

テンコ 大丈夫。

ケイ ね、勇気わくでしょう。

マスター う、うん。

ケイ 第三部、見る？ 感動的よ。

リモコンを押す。

太郎がサラリーマンの格好をして出てくる。

アキラ どうしよう！

太郎 もうダメだ！

テンコ 大丈夫。

アキラ どうしよう！

太郎 もうダメだ！

テンコ 大丈夫。

アキラ どうしよう！

太郎 もうダメだ！

テンコ 大丈夫。

アキラ どうしよう！

太郎 もうダメだ！

テンコ 大丈夫。

ケイ 第四部、見る？

マスター まだあるの！？

ケイ 大作なの！

リモコンを押す。

ユタカが学生服を着て出てくる。

アキラ どうしよう！

太郎 もうダメだ！

ユタカ やっぱり！

テンコ 大丈夫。

アキラ どうしよう！

太郎 もうダメだ！

ユタカ やっぱり！

テンコ 大丈夫。

アキラ どうしよう！

太郎 もうダメだ！

ユタカ やっぱり！

テンコ 大丈夫。

アキラ どうしよう！

太郎 もうダメだ！

ユタカ やっぱり！

ケイ　いいでしょう。あたしなんか、何回見ても涙ぐむもんね。
マスター　…：そうだね。マスターもなんだか、力が湧いてきたな。
ケイ　でしよう。
サブロウ　じゃまするよ。

サブロウがコートを着て、サングラスで登場。

サブロウ　（カウンターまで来て）ペプシ。コーラで割ってくれ。

と、情婦の格好でマリが登場。

マリ　待つて！　いかないで！

サブロウ　マリリン！

マリ　あなたが行くなら、私は死ぬわ！

サブロウ　死ぬな！　君が死ぬなら、俺が死ぬ！

サブロウ、自分の頭を銃で撃ち、倒れる。

マリ　あなた！（マスターとケイに）人殺し。よくも私の愛する人を。

（マリ、サブロウの銃を奪って）パンツッ！　パンツッ！（と、マスターとケイを撃つ）

マスター、ケイ、付き合っしょうがなく、やる気のない声で死んでいく。

マスター・ケイ　うつ。

マリ　あなた、仇は取ったわよ！　でも、あなたはいない…：あははははは。

マリ、狂女のように笑う。

サブロウ　カット！　オッケー！

サブロウ、むっくり起き上がる。
マスター、ケイも起き上がる。

サブロウ ご協力感謝します。

マスター・ケイ (事務的に) いえいえどうも。

マリ サブちゃん、どうだった？ 私の演技。

サブロウ プロデューサーでしょう。ベリーグッ！ ぶらぼうよ、ぶらぼう。

マリ ほんと！？

マスター いいかげん、うちで練習するの、やめてくんない？

ケイ 人騒がせよ。

サブロウ 申し訳ない。観客の反応がないと不安で不安で。やっぱり、根っからのプロデューサーなんだな、私は。

ケイ 会長が大変なのに、こんなことしてていいの？

サブロウ うん。僕も病院にしようと思ったんだけど、いいんだって。会長の周りに偉い人がちゃんとついてるからね。

ケイ サブちゃん、偉くないのね。

サブロウ おだまり。

マスター 太郎は？

サブロウ うん。どうも最近、企画があわなくてね。

マリ アライグマの結婚式だって。

ケイ アライグマ！？

サブロウ 人間の企画はもういいんだと。人間が一番面白いのにさ。

ケイ 女が、でしょう。

サブロウ ケイちゃん、僕に話があつたんじゃないの？

ケイ はい。作品の感想をお伺いしようと思ひまして。

サブロウ 態度、変わりすぎない？

ケイ だって、友達は友達。ビジネスはビジネス。

サブロウ その通り。感想は面白かったよ。

ケイ はい。

サブロウ マスター、二階、カンヅメに借りるよ。

マスター えっ、ああ。

サブロウ 二階ができて、ほんとに便利になったよね。

マスター そうかい。

サブロウ、階段を駆け上がる。

ケイ サブちゃん……。

マスター (マリに) 何か飲むかい？

マリ どうしようかな……。

太郎が入ってくる。

太郎 マスター。

マスター いらつしやい。二階にサブロウがいるぜ。

太郎 そう。コーヒー、下さい。

太郎、椅子に座り、テーブルの上にノート型のパソコンを置き、仕事を始める。

マリ マスター。子供ができやすくなる料理って知らない？

マスター あら、子供が欲しいの？

マリ うん。でも、なかなかできなくて。

マスター でも、子供ができるとスタイル、崩れるかもしれないよ。

マリ それでも、欲しいの。

太郎 マスター、それって、遺伝子と関係あるんだよね。

マスター 進化の話だな。

と、チハルが入ってくる。

チハル こんにちは。

マスター いらつしやい。

チハル コーヒー下さい。(全員に) こんにちは。

三人、それぞれに挨拶を返す。

マリ マスター、あたし、やっぱり帰ります。

マスター あら、そう？

マリ 今日はユタカのために、スペシャル・ロールキャベツ作るの。

マスター 時間かかりそうだね。

マリ うん。サブちゃんに挨拶して帰る。

マリ、二階に行く。

ケイ (太郎に) あの、

チハル 太郎さん。あたし、企画考えてみたんです。聞いてくれませんか？

太郎 面白い？
チハル もうむちゃくちゃ！
太郎 いいよ。話してみて。
チハル 資料があるんです。取ってきます。

チハル、上手に去る。

ケイ あの、太郎ちゃん、

と、太郎の携帯が鳴る。

太郎 はい、もしもし。ああ、分かった。原稿は私が書く。会長にはそう伝えておいてくれ。大丈夫だ。じゃ、後で。(電話を切る)

マスター ……会長の世話もしてるのか？

太郎 そう、みんな、バカばかりだから。

ケイ 会長の選挙のこと？

太郎 そう。選挙プロジェクトを任されて困ってたんだ。

ケイ どうせ、テレビやネットでばんばん宣伝するんでしょう。『クロスメディア』って奴で。

太郎 だから困ってたんだよ。ケイちゃんもなんとなく『クロスメディア』に反感を持つてる。大衆がこの言葉を知った時点で、もうダメなんだ。でも、これで楽になったよ。当選、間違いなしだ。

マスター えっ？

激しい雨の音が聞こえてくる。

ケイ あっ、雨だ。

雷の音。

ピカリと光る。

ケイ ひっ。
太郎 すごいな。

電気がふっと消える。

太郎 ん？ 停電か？
ケイ どこかに落ちたのかな。

太郎の顔はパソコンの光で浮かび上がる。

マスター ……当選間違いなしってどういうことだ？

太郎 撃たれて重症の会長。言論の自由を守るために、あえてベッドから立候補。どう？

ケイ なるほどねえ。でもさ、会長って重症なんでしょう。立候補して、もしものことがあったら、

太郎 本当に重傷だと思うかい？

マスター・ケイ えっ？

太郎 嫌な仕事を引き受けちゃったよ。

明かり、つく。

太郎 あ、ついた。

その瞬間、アライグマの格好をしたユタカとテンコが登場。
アライグマ・ダンスを踊り終わって、

ユタカ こんにちは。アライクマ造です。

テンコ こんにちは。アライクマ子です。

ケイ どうしたの、その格好？

太郎 みなさんにご紹介します。アライグマの結婚式の親族代表です。

ユタカ・テンコ ウェディング・ごしごし！

ケイ ユタカ、マリちゃんが来てるよ。

ユタカ えっ、どこ？

ケイ 二階。

ユタカ よし。一発、驚かすか。

ユタカ、二階へと駆け上がる。

太郎 濡れちゃった？

テンコ いえ。でも、すごい夕立でしたね。マスター、どうです、この格好？

マスター (太郎に) 楽しそうだな。

太郎 ああ、人間相手の仕事より何倍も面白い。絶対にブームにするよ。
ケイ (咳払い) あの、太郎ちゃん、
ユタカ いないよ。

ユタカ、階段の踊り場に立つ。

その後ろの天使1。その顔は強張っている。

ケイ そんなはずないでしょう。

マスター サブローがいただろう。

ユタカ ううん。誰もいないよ。

テニコ 私、見てこようか。

テニコ、階段を駆け上がる。

チハルが入ってくる。

チハル 太郎さん、お待たせ！ 太郎さん、いいですか？

太郎 いいよ。話してみて。

チハル ここじゃ、恥ずかしいから。

太郎 そう。じゃあ、二階に行くかい？

チハル はい。

チハル、元気に二階に駆け上がり去る。
太郎も後を追おうとする。

ケイ あの、太郎ちゃん、

と、階段の踊り場にマリが出てくる。

マリ ユタカ！

階段の途中の太郎、立ち止まる。

ユタカ マリ、どこにいたの？

マリ あのね、

テニコ トイレだって。

テンコが踊り場に出てくる。

ユタカ トイレにずっといたの!?

マリ だって、ベンピ……やだあ、ユタカ、そんなこと、言わせないでお。

ユタカ えー、なんだよ。驚かそうとおもったのに。

マリ ユタカ、仕事終わった?一緒に帰ろう。

ユタカ ごめん。これから、アライグマのリハーサルなんだ。

太郎 えっ……

ユタカ さあ、太郎さん。スタジオに行きましょう。この衣裳を早く、本物のアライグマさんに見せないと。

太郎 えっ、ああ。

テンコ ユタカさん、何も今からじゃなくても。

ユタカ テンコちゃんの後でいいよ。仕事が終わってからで。さあ、太郎さん、行きましょう。

ユタカ、さつさと出て行く。

太郎 じゃあ、行くか。(マスターに)今日は進化の話、できるかなって思ったんだけど。

マスター えっ。ああ、またな。

太郎、去りかける。

ケイ あの、太郎ちゃん!

太郎 えっ?

ケイ あの、作品の感想を……

太郎 ああ、作品ね。

ケイ はい。

太郎 ごめん。自分が出てて言うのは辛いんだけど、あれじゃ使えないんだ。もっと分かりやすくしないと。

ケイ 分かりやすい……。

ユタカの声が外から聞こえる。

ユタカ (声) 太郎さん！ 行きましょう！
太郎 ごめんね。じゃあ。

太郎、去る。

マリ あたしも帰ります。
マスター えっ、そうかい。
マリ さよなら。

マリ、去る。

テンコ ユタカさん、何考えてるんでしょう。マリちゃんはユカさんの曲、
一生懸命、売り込んでるのに。

マスター (ケイに) 何か飲むかい？

ケイ 『コーマ・エンジェル』

マスター えっ？

ケイ マスターも知らないか。図書館の古い本にあったの。幸せになる飲
み物だって。……ビール、頂戴！

マスター へい。

ケイ マスター。

マスター ん？

ケイ 昔ね、うんと傷つけばいいんだって言ったでしょう。傷つけば傷つ
くほど、優しくなれるって。

マスター ああ、言ったなあ。

ケイ あれって本当？

マスター 嘘だ。

ケイ ……。

マスター 傷つけば傷つくほど、底意地の悪くなる奴だっているよ。

ケイ ……ありがとう。

マスター (優しく) いやいや。

ケイ トイレ、行ってくるわ。

ケイ、下手に去る。

マスター、二階の階段を上がり、奥へ去る。

テンコ どうして抱き合ってたの！？

天1 停電と雷のせいだよ。

テンコ そんな……

天1 人間はそういう生き物なんだよ。

テンコ とめられなかったの？

天1 天使の仕事は見つめることだけだ。

テンコ だけど、

天1 それが大切な仕事……俺のこと、まだ見えるのか！？

テンコ 今、驚くのか？

天1 見えるのか？

テンコ うん。でも、もうすぐ、見えなくなると思う。

天1 透き通ってるか？

テンコ うん。もう輪郭しか見えない。

天1 そうか。……見たいものが見えなくて、見たくないものが見えるんだよな。

テンコ 見たくないものなんて、ないよ。

天1 うん。そうだな。

マスター 誰と話しているんだい？

マスター、階段の踊り場に立っている。

天1・テンコ えっ！

マスター そこに誰か……まさか、天使なのか？

テンコ いえ、あの、

マスター 天使がいるんだね。

テンコ マスター、

マスター ありがとう。あなたがいてくれて、本当に嬉しいよ。さあ、握手をしよう。

マスター、手を差し出す。しかし、その方向は、天使1のいる場所と違う。天使1、ためらうが、握手の手を差し出そうとした瞬間、ケイが出てくる。

ケイ 決めた！ あたし、画家になる！

マスター そいつはいい。きっと成功するよ！

ケイ うん。そんな気がする。

マスター さあ、乾杯だ！

と、バレリーナの格好をしたアキラが飛び込んでくる。

アキラ イッツ・ショウタイム！

全員 ……。

アキラ えっ、終わっちゃった！？ おわっちゃったの！ どうして、俺っ
ていつつもこうなの？ 勘弁してよねー！

ケイ これからよ。

アキラ らっきー！

マスター 壁のほうがいいのか？

アキラ 壁よりショウよ。何がなくてもショウタイム。

アキラ、ふっと二階を見る。

踊り場にチハルが立っている。

アキラ チハルも入れよ！

チハル はい！

アキラ 行くぞ、イッツ

全員 ショウタイム！

音楽がかかり、全員が踊り始める。

踊りの途中で、踊り場にサブロウが現れる。

サブロウは、踊っている人達を黙って見つめ、やがて奥へ去る。

店の人々は下手に去り、お店の装置も引っ込む。

ユタカとマリが出てくる。

○ユタカとマリの部屋。

マリ じゃあ、ユタカ、お鍋にタイ風ココナッツグリーンカレーがあるか
ら、温めて食べてね。

ユタカ ああ。

マリ 元気ないのね。

ユタカ そんなことないよ。

マリ 分かってる。私だって、仕事なんか行きたくないの。ユタカが行く
なって言ってくれたら、行かない。

ユタカ そうはいかないだろ。

マリ 昔はいつも言ってくれたじゃないの。「マリ、行っちゃやだじよー！行っちゃやだじよー！」って。

ユタカ はやく行きなさいよ。

マリ 言ってよお。うんと甘えて言ってよお。「マリ、行っちゃやだじよー！マリ、行っちゃやだじよー」って。

ユタカ しょうがないなあ。……「マリ、行っちゃやだじよー！行っちゃやだじよー！」

マリ じゃ、行くね。

ユタカ おい。

マリ そうそう、サブちゃんが言ってたけど、曲ってね、頭の中でメロディーが鳴っても、我慢して我慢して、あつと言う間に作る方がいいんだって。ユタカ、慎重過ぎるのかもしれないね。じゃ、行くね。行きたくないじよー。

ユタカ ……サブロウは関係ないだろ。

マリ えっ？

ユタカ お前に何言われてもしようがないけど、サブロウは関係ないだろ。

マリ ユタカ……

ユタカ 音楽が分かんない奴の意見もへこへこ聞かなきゃいけないの？朝から晩まで働いてるお前に、曲売り込んでもらって、俺、どうしたらいいの？

マリ ちよつと……

ユタカ アライグマやってもテレビショピングやっても、俺はロッカーなんだよ！

マリ ユタカ……。

その瞬間、サブロウと太郎が出てくる。

サブロウ・太郎 カット！

そこはテレビ局のスタジオ。

○テレビ局のスタジオ

太郎・サブロウ ぶらぼう！ぶらぼう！二人供、最高！

マリ ほんとですかあ。

サブロウ 最高だよ、最高。

ユタカ ありがとうございます。

サブロウ うん。ユタカちゃん、いけるじゃない。役者、向いてるよ。

ユタカ そうですか。

マリ ユタカ、よかったね。

サブロウ さっそく、準備に入ろう。ユタカちゃん、スタジオに入ってちょうだい！

ユタカ はい。

ユタカ、下手に去る。

マリ (サブロウに) ありがとうございます。

サブロウ いいんだよ。

マリ ユタカの曲、お願いします。

サブロウ 分かってる。

太郎 さ、マリちゃんも準備だよ。

マリ はい。

マリ、上手に去る。

サブロウ あたるぞ、このドラマは！ どこまでが演技で、どこまでが本当か分からないリアル・ドラマ！ ドラマの歴史を変えるぞ！ さすが太郎だよ。人間はもういいとか言いながら、ちゃんとこんなすごいアイデアを！ もう、憎い、憎い！

太郎 ……本当に曲、使うのか？

サブロウ 旬は終わったって言うんだろ。でもな、二人とも一生懸命、

太郎 奴の運は終わってる。逆に、運を取られるぞ。

サブロウ そしたら、またすごい企画で運を取り戻してちょうだい！

太郎 あのなあ、

サブロウ さあて、仕事してこよつと！

サブロウ、下手に去る。

ケイがスケッチブックを抱えて、上手から入ってくる。その後ろに天使1。

ケイ こんにちは！

太郎 こんにちは。

ケイ 太郎ちゃん、用事って何？

太郎 絵、書いてるんだって？ テンコちゃんが言ってた。見せてくれない？

ケイ わお。いつも書いてるのよ。どうじよ、どうじよ。(太郎にスケッチブックを渡す) ……どうかな。遠慮せずにすぱーんと言ってね。すぱーんと。

太郎 (絵をぱらぱらと見た後) ケイちゃん。

ケイ ダメ。やっぱり、すぱーんといっちゃダメ。優しくね。

太郎 今度ね、もぐらの恋愛ドラマ、企画してるんだ。そこで、モグラのお姉さんて役があるんだけど。

ケイ モグラのお姉さん。

太郎 絵の上手いモグラのお姉さんでもいいんだけど。

ケイ、はたと考え込む。

ケイ なるほど。

太郎 もちろん、嫌ならいいんだけど。

ケイ 質問があります。

太郎 どうぞ。

ケイ この絵はどこがまずいんでしょう？

太郎 ヘヴィー(深刻)なんだ。

ケイ ヘヴィー！？ そう描きました。

太郎 ケイちゃん。

ケイ へいへい。

太郎 売れるものと真実は違うんだ。人々は自分を安心させてくれるものだけを求めるんだ。

ケイ 安心させてくれるもの？

太郎 例えば、君はここ一番、ここで媚びなきやいけないという時、媚びれないだろう。

ケイ そんなこと、やっただあ……はい。……どうせ私はここ一番に媚びを売れない人間よ。ついでに、恋愛にも臆病よ！ 大笑い大笑い。

太郎 できない人はたくさんいる。無理して媚びて自分を嫌いになる人もたくさんいる。だから、自分の現実は見たくない。

ケイ 真実だから売れないと、そうあなたは私に告げる。

太郎 真実であればあるほど、売れない。

ケイ で、モグラの絵描きさんなわけですね。

太郎 ……傷つけることになったら、すまない。

ケイ よし！

太郎 どうする？

ケイ コインで決めよう。

太郎 ……うん。

ケイ、コインを放り投げる。

そして、コインに関係なく決心する。

ケイ よし！ 太郎ちゃん、

突然、サブロウが飛び込んでくる。

サブロウ 太郎、大変だ！ 会長の病室が爆破された！

太郎 爆破！？ ばかな！

サブロウ すごい死者だ！ 早く、来てくれ！

太郎 そんな…ケイちゃん、ごめん。あとで、話そう！

ケイを残して、太郎、サブロウ、去る。

ケイ ……オーケー、オーケー、イツツ・ノー・プロブレム。

眩いているケイに、天使1が近づく。そして、ケイの肩に手を乗せる。

ケイの顔がゆつくりと、穏やかな希望に満ち始める。

ケイ よし。マンガ家にもなるか！ ようし、やるぞお！ オーケー、

オーケー、イツツ・ノー・プロブレム！

ケイ、去る。

その後ろ姿を見つめる天使1。

天使1、手帳を広げる。

スクリーンが現れ、文字が映る。

天1

それからまた、気の遠くなる時間が流れた。天使は変わらない。でも、人間は変わる。

ケイちゃんにはマンガを四つ描いた。マリはドラマのリハーサル中、階段を踏み外し、最初の子供を流産した。カルマ・グループの会長と有能な幹部達が集まっていた病室は爆破され、サブロウが議長という名のナンバーワンになった。モグラの絵描きさんの役はなくなり、代わりにモグラのロックンローラーの役を、ユタカが演じた。太郎は次々と企画をヒットさせている。チハルは違うお店のウェイトレスになった。アキラは、毎日、壁に向かって突撃を繰り返している。みんな忙しくなって、マスターのお店に集まる回数が減ってきている。それでも、テンコは元気に働いている。

街は幸福だ。僕は書くことがなくて困っている。

明日にも、僕は懐かしい受け持ち区域に戻ろうと思う。

天使1の言葉が終わっても、スクリーンはそのまま。

天使1が引っ込み、原始人の格好をしたアキラが登場。

と、ケイが来る。

ケイ
こんにちは。

アキラ
あれ、どうしたの？

ケイ
うん。風景のスケッチにね。

アキラ
そうか。マンガ家だもんな。

ケイ
どう調子は？壁、壊れそう？

アキラ
ダメだね。

ケイ
ダメって。

アキラ
でも、いつかはきっと壊れるよ。俺、分かっているんだ。

ケイ
分かっている？

アキラ
ああ。そういう予感っていうの、確信があるんだ。

ケイ
なるほど。……この向こうって、どうなってるんだろうね。

アキラ
ケイちゃんも行ってみたい？

ケイ
そりゃそうよ。行けるもんならね。

アキラ
よし、じゃあ、壁が壊れたら一緒に行こうか？

ケイ
えっ？

アキラ
あの地平線の向こうだよな。あの向こうには、きっとわくわくする

冒険が待ってるんだぜ。

ケイ だといいいね。

アキラ 決まってるさ。

ケイ 案外、恐ろしい世界かもよ。人間を食べる巨人が進撃してたりして。

アキラ そんなわけないよ。

ケイ そろそろ、番組、始まるんじゃない？

アキラ おっ、そうそう。さあ、今日も元気に行きますか。

ケイ ユタカは？

アキラ 今、メイクしてるよ。今日は、ミドリガメの結婚式の司会があつて、遅れたみたい。

ケイ なるほど。じゃね。

アキラ おう。あ、そうそう。いつでも旅行に行ける用意はしといた方がいいよ。

ケイ どうして？

アキラ だって、今日、壁が壊れるかもしれないじゃないか。

ケイ ……そっか。じゃあ、準備しとく。じゃあね。

ケイ、去る。

音楽がかかる。

アキラ、壁に向かって突撃を始める。

アキラ おうりやー！ すつとりやー！ 突撃！

同時にスクリーンが開く。

そこは、マスターのお店。

天使1がテレビを見ている。

他には誰もいない。テレビのフレームからユタカが飛び出して来る。

ユタカ みなさん、こんにちは！ カルマ・テレビ『壁を壊そう』の時間が

やってきました。司会はおなじみ、ロックンローラー、ユタカで

す。さあ、今日も、ここ街外れでは、毎日毎日、アキラが壁に向か

って突撃を繰り返しています。壁は果たして壊れるのか？ 壁の向

こうには、いったい、何があるのか？

アキラ アキラさん、壁は壊れそう
だめだろ。

ユタカ どうもありがとうございます。『壁を壊そう』また明日！
アキラ おぼえてろよ！ きつと壊してやるからな！

アキラ、テレビのフレームの中に去る。

ユタカ 続いて、『カルマスタイル』の時間です。今週、カルマ・グループが提案するのは、「タツキースタイル」。これは「ギリギリ悪趣味」という意味で、

天使1、人の気配がするので、テレビを消す。

ユタカ、フレームの中に消える。

サブロウとテンコが、二階から降りてくる。

サブロウ ありがとう。ずいぶん、気が楽になったよ。

テンコ 大丈夫よ。議長なら、きつとやれるわよ。

サブロウ サブちゃんでもいいよ。

テンコ ダメよ。サブちゃん。

サブロウ (ヘラヘラと) はくい。

テンコ 議長。

サブロウ (キリツと) そこ、静かに。

テンコ ね。こういうのは、気分だけど、気分が大切なんだから。議長みたいに優しい人は、まず形から入らないと。議長って呼んでもらうって、いい案だったでしょう。

サブロウ うん。……なんか、テンコちゃんと話していると、懺悔してるみたいで気持ちがうんと楽になるよ。

テンコ ま、得意分野だからね。

サブロウ えっ？

テンコ いいの、いいの。さあ、誰かに見られたら格好、つかないわ。

サブロウ ああ。ありがとう。

サブロウ、去る。

天使1 がんばってるな。

テンコ (はっと) えっ、誰かいるの？

天使1の姿も見えず、声も聞こえないのだ。

天1 (少し微笑んで) いいんだ。がんばれよ。
テンコ さあて、忙しい、忙しい。

テンコ、カウンターのの中に入り、帳簿を出す。
マスターが、両手に大きな紙袋と小さな紙袋を持って、上手から登場。

マスター おや、早いじゃないか。

テンコ 帳簿の整理ですよ。マスター、何もしてないでしょう。

マスター いや、悪いな。

テンコ 悪いな、じゃないです。マスター、分かってるんですか？ 最近、お店苦しいんですよ……なんです、それ？

マスター (大きな紙袋から箱を出して) 二階に置こうと思ってね。なんと、3Dデジタルツイスターゲームだ！ 受けるぞお！

テンコ 高いんですか？

マスター 高い。だが面白い。知らんか？ 右手赤、左足青。やめられんぞお！

テンコ マスター、

マスター これですます、二階も楽しくなるな。さっそくセッティングしてください。
こよう。

マスター、二階への階段を上がる。

テンコ ほんとにしようがないんだから。

テンコ、帳簿を見続ける。

やがて、うたた寝を始めるテンコ。

テンコに明かりが集まる。

時間が過ぎていく。

ケイ テンコちゃん、ビール！

テンコ あいよ！

テーブルにケイとユタカ。
カウンターの近くに太郎。

少し離れてチハル。

テニコが、ユタカとケイのテーブルにビールを持っていく。

テニコ はい、ビール。(テーブルに置く)

ケイ ありがとう。

テニコ (テーブルに置いてあるマンガを見て) このマンガ、なんて言われたの？

ケイ マイナー過ぎるんだって。

ユタカ マイナーねえ。才能がないって言われるよりはましだよ。

テニコ さあ、ユタカさん、悩み事を聞きましょうか。

ユタカ 悩み事？ そんなのないよ。

テニコ いいから、いいから。懺悔しなさい。さあ、懺悔しなさい。

ユタカ ほんとにないよ。あ、望みはあるけどね。

テニコ なんです？

ユタカ 『コーマ・エンジェル』が飲みたい。

ケイ (驚いて) ユタカも知ってるんだ。

ユタカ ああ。

テニコ 『コーマ・エンジェル』ってなんなんですか？

ユタカ 噂なんだけどき、何の害もなくトリップできる素晴らしいんだ。テン

ニコ コちゃん、知らない？

テニコ 知りませんねえ。

ユタカ そうだろうな。

と、音楽。

太郎がテレビのスイッチをつけたのだ。テレビのフレームから勇ましい格好をしたサブロウ、出てくる。

サブロウ こんにちは。あなたのカルマ・グループの時間です。いよいよ、明日、カルマ・グループ総力をあげてのイベント、『カルマでわっしょい！』が行われます。全市民は、午前10時、中央公園にお集まり下さい。詳しくはカルマ・グループのテレビ、ネット、新聞、ラジオ、あらゆるメディアをチェック！ 明日午前10時、中央公園へ急げ！

そう言って去るサブロウ。

テレビを消す太郎。

チハル これも、太郎さんの企画ですか？

太郎 いや、サブロウの企画さ。とめたんだけどね。

チハル どうしてです？

太郎 どうしてって、まあ、ちよつとね。

チハル ちよつと、なんですか？

太郎 いや、ちよつと専門的だから、

テンコ (話に加わって) 説明して下さい。とことこん聞きます。

太郎 いや、この企画はクロスメディアを強引に展開させてるだろ。それはもう古いんだ。大切なのは、「メディア・アーキテクチャ」なんだ。

テンコ 「メディア・アーキチャッタ」？

太郎 「アーキテクチャ」。いかに、クロスメディアによって、自然な環境を作るか。分かりやすいえばね、ファーストフードは、混雑してきたら、店内のBGMの音量を少し上げるの知ってるかい？

テンコ そうなんですか？

太郎 もともと、椅子を固くして30分以上、座りにくく設計した上に、BGMを上げて、居辛くして回転率を上げる。誰からも命令されていると思わせないで、自然にそういう環境を作るのが、「メディア・アーキテクチャ」。お客を急かしたり、帰ってもらったりなんて強引な方法の反対だね。

テンコ 「メディア・アーキチャッタ」ってずる賢くないですか？

太郎 みんなに気持ちよくなってもらいたいんだよ。強引な命令なんて嫌じゃない。

テンコ どうも納得できない。ねえ、チハルちゃん。

チハル えっ。よく分かんないです。……太郎さん、あたし、企画考えたんですけど。

太郎 面白い？

チハル あんまり自信ないんだけど、

太郎 じゃあ、ダメだな。考え直しだ。

チハル ……。

テンコ 太郎さん。太郎さんは賢いんだから、議長を助けてあげて下さい。

太郎 議長……ああ、サブロウのことか。大丈夫、サブロウは僕なんかより、ずっとたくましいよ。

テンコ そんなことないですよ。

テンコと話す太郎。

チハルは会話に入れない。

○ユタカとケイのテーブル。

ユタカ コーマ・エンジェル、飲みたいなあ。

ケイ ユタカ、曲、作ってる？

ユタカ なんだよ。

ケイ 作ってるの？

ユタカ 自慢じゃないけど、俺はロッカーだよ。

ケイ モグラのね。

ユタカ ストックはもう、百曲を越えたよ。

ケイ いい曲、ある？

ユタカ ケイ、お前、本当は歌がやりたいんだろ。

ケイ 私はマンガ家よ。

ユタカ 分かるよ。お前の気持ちはよく分かる。

ケイ 人の気持ちを勝手に決めつけないの。

ユタカ 俺たちって似た者同士かもな。

側にいた天使1、びくんとする。

ケイ それ、くどいてるの？

ユタカ (ドキツとして) えっ？ そんなふうに聞こえた？

ケイ あたしは、『コーマ・エンジェル』の代わりじゃないの。

ほっとする天使1。

ユタカ 今度、お前の歌、聴かせろよ。

天1 (ケイの肩に手を置いて) 一杯、作ったんだ。今度、聴かせてあげるよ。

ケイ 私、あんたのマネージャーになってあげようか。

ユタカ マネージャー！？

ケイ そう。

ユタカ どうして？

ケイ どうしても。

ユタカ ……でもなあ。

ケイ ポップとかじゃなくてさ、ヘビーでマイナーで分かりにくい曲をヒットさせようよ。

ユタカ う、うん。

と、マスターが紙包みを持って、階段を降りてくる。

マスター (太郎に) いらつしやい。おや、今日は多いな。

テンコ マスター、何してたんですか？

マスター いや、一人でツイスターゲームやってたら、終わらなくてさ。強いんだよ、俺と俺。

テンコ 意味分かりません。(紙袋を見て) なんです、それ？

マスター いや、なんでもない。

マスター、カウンターの下に紙袋を押し込む。

と、サブロウが刑事の格好で、銃を構えて入ってくる。

サブロウ 動くんじゃねえ！ マスター！ ネタは上がってるんだ！ 証人もいるんだぞ！

マリが続いて入ってくる。

マリ 私、見たんです！ あの時、私は見たんです！ マスターが、マスターが、

サブロウ 分かったか！ おっと、これはいつもの大爆笑のコントじゃないぞ！ 関係者全員に爆弾が落ちる、衝撃の告白だ！

マスター ……。

サブロウ (近づきながら) ふっふっふっ。マスター、見られていたとはうかつだったな。

マスター ……なんの話だ？

サブロウ マリちゃん！

マリ マスターが、マスターが、私、信じられません！

サブロウ 分かったか！ マスター、観念しろ！

マスター、思わず、カウンターの中から包丁をつかむ。

サブロウ・マリ (驚いて) マスター!?

マスター マリちゃん、何見たんだ？ 何、見たんだ！

全員 ! (マスターのあまりの剣幕に驚く)

マリ えっ……。

マスター 何、見たんだ！

サブロウ いや、あの……

戸惑う全員。困惑した間。

アキラが昔のギャングの格好で、マシンガンを持って飛び込んで来る。

アキラ イッツ・ショウタイム！

全員 えっ。

テンコ (突然) もう終わっちゃったよ！

アキラ 嘘う！ どーして！ どーしてこうなるの!?

テンコ 残念。たった今、終わっちゃった。ね、マスター。

マスター えっ、ああ、ああ。

ケイ なんだ、ショウタイムだったの。

全員、安堵の溜め息。

サブロウ マスターも人が悪いなあ。驚くじゃないか。

マスター えっ、ああ。

ケイ いつも勝手に練習してるからよ。

マスター そうそう。たまには、こっちからおどかさうと思ってね。リアルだ

っただろう。

サブロウ リアル過ぎて、どうしていいか分かんなかったよ。

マリ ほんと、びっくりしました。

マスター さ、みんな、ビールだ。

テンコ はい。

アキラ こらー！ どうして、どうして、こんなに早く終わるのよ！ 今日

のショウタイムは特別でしょう。

テンコ どうして？

アキラ どうしてって、このポケ従業員！ 今日はお店の開店記念日でしょ

うが。

全員 (マスターとマリとサブロウ以外) ……ああ。

アキラ どうして、こんな大切な日を忘れるのよ！

ケイ　　そうか。今日は開店記念日か。
ユタカ　この店の歴史が、俺たちの歴史だもんな。

全員、ふと懐かしい顔をする。

マリ　　マスターが今日買ったハンカチって、そのための物なんでしょう？
マスター　えっ……見てたの？

マリ　　だから、見たって言ったじゃないですか。

マスター　そうだよね、そうだよね。

ケイ　　マスターの買い物を見たんだ。

サブロウ　そうだよ。だから、ほら、シャンペン。開店記念日のプレゼント。

サブロウ、コートの中からシャンペンを取り出し、マスターに
渡す。

マスター　あ、ありがとう。

ケイ　　サブちゃん、やる時はやるじゃない。

サブロウ　議長と呼んでね。議長なら、当然の行動です。

テンコ　あつ、まさかマスター、この紙袋……

テンコ、カウンターの紙袋を開ける。天使の絵が描かれたハン
カチが出てくる。

テンコ　あー、いいじゃないですか！

ケイ　　その絵、マスターに頼まれて私が描いた天使。

マスター　一人一枚。開店記念日のプレゼントだ。

テンコ　あーっ！　一人一人、名前が刺繍してある！

全員　　えーっ！

全員、ハンカチに集まる。

マスター　このハンカチを使った時、「おっ、今日は『アンジェリコ』に寄ろ
う」って思ってもらえたら、幸せです。

テンコ　　そうですね。最近、お店、暇なんですから。

太郎　　マスター。

アキラ　　な、ばあーっとなんかやろうぜ！

マリ 賛成！ ユタカに記念に曲を作ってもらうのは？

テenko ビデオも撮ろうよ、全員で！

サブロウ ちゃんと用意してるって。

ケイ いいね。ぱあーつとやろうよ！

アキラ イッツ、

全員 ショウタイム！

音楽がかかる。

全員、一度、去る。

サブロウ、ムービーカメラをセットする。

全員、お店に次々と飛び込んで来て、あちこちで思い思いのポーズで佇む。記念写真ならぬ、記念ビデオである。だが、やがて、話すことも尽き、人々は哀しく淋しい顔になる。

マスター、サブロウからもらったシャンペンを開けるのをためらう。

太郎、かつて幸福だった仲間たちの無残な風景は見たくないと、黙って二階に上がっていく。

サブロウ (突然) こんな時、『コーマ・エンジェル』でもあれば、盛り上がるのになあ。

全員、現実に戻される。

ユタカ サブちゃんも知ってるんだ。

サブロウ 議長って呼んでね。ああ、もっぱらの噂だぜ。

マリ 『コーマ・エンジェル』って何？

サブロウ 悪いもんじゃないよ。楽しさを倍する。

マリ 楽しさが倍！？

ユタカ ドラッグだよ。

マリ コーマ・エンジェル……

テenko 意識不明の天使か。

ケイ ……神様が旅に出た後に、天使はずっと意識不明。(とマリを見る)

マリ ……神様の言葉は諦めても、天使の囁きは聞きたかった。(とユタカを見る)

ユタカ 私と天使の間にかかる

サブロウ 幻の虹を渡ろうとして
アキラ あなたはいくつの涙を流し
マスター あなたはいくつの言葉を忘れた
チハル 涙を流し続けていると
テンコ 虹は決して消えないから
ユタカ 言葉を忘れ続けていると
マリ 自分を探す旅は終わらないから
ケイ あなたとあなたの天使のために
マスター あなた自身の天使のために
全員 あなた自身の天使のために
太郎 いけるな！ それ！

太郎が階段から降りてくる。

太郎 誰の詩なの？
テンコ 誰って、なんとなく、アドリブでねえ……
マリ ユタカの詩よ、素敵でしょう。
ユタカ えっ。
テンコ そうそう。ユタカの詩だったわ。
サブロウ 違うな。この詩は、次のマリちゃんのドラマのテーマ曲だよ。
ケイ ちよつと待ったあ！ そういうことなら私も言いますけどね……私
は美しい。
全員 ……。
ケイ おや、天使が飛んだね。
太郎 とにかく、もううよ！ いけるぞ、これは！

太郎、走って去る。

アキラ 太郎さん！ ショウタイム！
マスター みんな、じゃ、開店祝いだ。飲んでくれ。
アキラ らっきー！
ユタカ マスター、悪いんだけど、明日早いんだ。失礼するよ。
マスター そうか。がんばれよ。
ユタカ ああ。
サブロウ マリちゃんは飲んでく？
マリ いえ、私も帰ります。

ユタカ マリはもうちよつといたら？
マリ えっ……

天使1、ユタカの肩に手を置く。

ユタカ ……一緒に帰るか。

マリ うん！

ユタカ・マリ さよなら！

ユタカ、マリ、去る。

天使1、残るかどうかためらって、二人の後を追う。

サブロウ あくあ。どつかに『コーマ・エンジェル』ないかなあ。

ケイ どうして？ 議長にもなったし、

テンコ カルマ・グループは安泰だし、

アキラ ドラマも好調だし、

チハル そうそう。

サブロウ いいよなあ。そうやって無責任に言える一般大衆は。

マスター、カウンターから大きなビンをドンと置く。

マスター ほい。

サブロウ ん？

マスター 『コーマ・エンジェル』だ。

全員 ひえっ！

マスター 内緒だぞ。

サブロウ 本物？

マスター マスター、嘘つかない。

サブロウ ……あ、ありがとう。ありがとう、マスター。よし！ これで何もかもうまくいくぞ！

ビンを持って、駆け去るサブロウ。

テンコ どうしてマスターが持ってるんですか？

マスター このカウンターは、魔法のカウンターなんだ。何でも出てくる。

アキラ マスター、俺にもちようだい！

マスター (きつぱりと) だめだ。

ケイ ごめんね、マスター。

マスター え？

ケイ みんなでパーティー、やりたかったのにね。

マスター いいんだよ。みんな忙しんだ。いいことじゃないか。

アキラ そうそう。薄情な奴は放つといて、俺たちで盛り上がるうぜ。

テンコ そうそう。

ケイ アキラ、元気に叫んでくれる？

アキラ まかせなさい。壁の壊れるその日まで、いくぞー！ イッツ、

全員 ショウタイム！

音楽がかかり、ダンスが始まる。

しばらく踊った後、そのまま、下手に去る。(装置も消える)

ユタカが登場。

○ユタカとマリの部屋

ユタカが一人でいる。

サブロウが現れる。

サブロウ しよう！ ユタカ！

その声は妙に陽気でハイテンション。

ユタカ あれ、サブちゃん、どうしたの？

サブロウ 議長。じつはユタカに折入って話があつてな。

ユタカ マリは？

サブロウ まだ、仕事だ。じつは、ユタカに大切なお願いがあるんだ。

ユタカ なに？

サブロウ マリちゃんをくれ。

ユタカ は？

サブロウ マリちゃんをくれ。マリちゃんをくれるなら、なんでもしよう。ユタカの歌をドラマの主題歌にしよう。カルマ・グループ総力を上げて、バックアップすれば大ヒット間違いなしだ。だから、マリちゃんをくれ！

ユタカ サブちゃん、酔っぱらってるんだろ。

サブロウ ノウ！ 飲んでいるが、酒じゃないぞ！ それはなんでしよう？
議長は、今、ものすごく気分がいいのだよ。だから、ユタカ、マリ
ちゃんをくれ！

ユタカ マリは物じゃないんだよ。

サブロウ だから頼んでるんじゃないか。ユタカ、君は強いからマリちゃんが
いなくてもやっていけるだろう。でも、僕は弱い。ボクチンは物凄
く弱い。ナンバーワンチキンだ。だから、マリちゃんが必要なん
だ。アイ、ニード、マリちゃん。ユー、ドント、ニード、マリちゃ
ん。だから、ギミー、マリちゃん！

ユタカ いい加減にしろよ！

サブロウ ユタカ、歌に走れ！ 議長はマリちゃんに走る！ それで、世の
中、ピースアンドセイフ！ バリバリハッピー！

ユタカ 帰ってくれないか。

サブロウ どうして？ ホワイイ？ ユタカが必要なのはマリちゃんじゃな
い。ヒット曲だ。さあ、交代しよう。タッチ。

ユタカ 帰ってくれ！ ……それ以上言ったら、俺、サブちゃんでも許さな
いよ。

サブロウ ……ユタカ、大ヒットが待ってるぞ。連絡、待ってる。シーユーア
ゲイン！

サブロウ、去る。

マリがイヤホンで曲を聴きながら登場。

側に天使1。

マリ この曲、いい曲よね。今日、ずっと聴いてたの。(イヤホンを外

し)この曲、いい曲よね。

ユタカ ……。

マリ 今度こそ、間違いないわ。

ユタカ ……。

マリ、ユタカの横に来て、ポケットから錠剤の入ったビンを取
り出す。

ユタカ マリ、何してるの？

マリ ユタカ、死ぬつもりでしょう。

ユタカ ……えっ？

マリ ユタカが死んだら、私も一緒に死ぬからね。

ユタカ ……お前は何を考えてるんだ。

マリ どうして？

ユタカ ……もう今日は寝なさい。

マリ 一緒に曲作ろう。いっぱいいっぱい、パワー送るから。きっと、ヒットする曲ができるわよ。

ユタカ もういいから。俺のことはほっといて寝なさい。

マリ じゃあ、私も女優やめる。前からやめたかったの。二人で、もう一回、大工さん始めよう。

ユタカ そうはいかないだろう。

マリ いいの。平気だから。

ユタカ お前は平気でも、周りは平気じゃないよ。

マリ どうして、どうしてそんなこと言うの？

ユタカ もういいんだ。

マリ 大丈夫。きっと、ユタカの歌、ヒットするから。私がなんとかするから。

ユタカ (突然) ふざけんじゃねーよ！

マリ !

ユタカ お前のほどこしは受けないんだよ！ …… (呟く) って言ってみようか。

マリ ……えっ？

ユタカ そんなこと言えるわけじゃないか。歌いたいんだよ。お前のドラマの挿入歌でもなんでも、歌いたいんだよ。マリ、お前だけが頼りなんだからさ。俺、もうモグラやアライグマと仕事するなんて嫌なんだよ。お前だけが頼りなんだからさ。

マリ ユタカ……

ユタカ (呟く) ……こっちの方がいいか。

マリ えっ……

ユタカ (呟く) 俺はどっちがやりたいんだ……

天使1、決意して、ユタカの手を強引に引っ張り、マリの所に導く。

ユタカ (驚き、戸惑う) えっ、えっ、えっ

そして、マリの手を取り、ユタカの手としっかり握手させる。

マリ ユタカ……。

マリの顔に一瞬、微笑みが蘇る。
天使1、握手した二人の手を、「なかなかおり」というふう
に、動かす。

ユタカ ……さよなら。

それは、さよならの握手になった。
ユタカ、走り去る。
残されるマリ。

マリ ……サブちゃん、演技、終わったよ。サブちゃん、太郎ちゃん。ぶら
ぼう、ぶらぼうって出て来てよ。サブちゃん、演技終わったよ。演
技、終わったんだよ。ぶらぼう、ぶらぼうって出てきてよ。出てきて
くれないと、演技にならないよ。本当のことになっちゃうよ……。

天使1、ゆつくりとマリの肩に手を置く。

その瞬間、マリ、走り去る。

天使1、手帳を広げる。

スクリーンに文字が映される。

第七章

天1 それからまた、気の遠くなる時間が流れた。天使は変わらない。で
も、人間は変わる。

離婚したマリは、ますます、メジャーになった。サブロウは議長の
仕事を立派に勤めている。太郎は不思議な病気にかかった。ケイは
ユタカのマネージャーになった。ユタカに歌の仕事はまだ来ない。
チハルは違うお店のウェイトレスになった。アキラは、毎日、壁に
向かって突撃を繰り返している。マスターのお店は苦しく、テンコ
はなんとかしようとしている。

街は幸福だ。僕は書くことがなくて困っている。

明日にも、僕は懐かしい受け持ち区域に戻ろうと思う。

スクリーンがなくなると、そこは、お店。
サブロウがテレビで演説をしている。

サブロウ 諸君！ ついにその時は来た！ 人々の幸福と繁栄を希求し続けるカルマ・グループの真の使命とは何か？ それは、希望である。実体を持つ希望の創造である！ ここにカルマ・グループは、究極の大イベントを発表する。名付けて『壁の彼方へ』！ 我々の人口は、すでに、街をぐるりと取り囲めるレベルにまで達した。全市民によつて、一部のスキなく壁を押すことのできる人数である。全市民は、来週日曜、壁の前に集合せよ！ そして、正午の鐘と同時に壁を押し続けよ！ 均等に膨張した壁は、必ずや、崩壊する！ 我々は初めて、壁の彼方へと歩き始めるのである！ 来週日曜正午！ 全市民は、壁の前へ集合せよ！ 壁の前へ！

サブロウ、去る。

テレビを見ていた、マスター、テンコ、ケイ、そして、天使
1。

(テレビはテンコが切った)

テンコ ……とうとう、言い出しちゃいましたね。
マスター ああ。
テンコ あれだけ、とめたのにね。
ケイ いいのよ、これで。
マスター・テンコ えっ？
ケイ この時を待っていたのよ。ずっと。

サブロウ、いきなり、入ってくる。

サブロウ こんにちは。
ケイ ひっ！
マスター びっくりさせるなよ。生じやなかったのか。
サブロウ マスター、あれ、くんないか？
マスター 『コーマ・エンジェル』？
サブロウ 大きな声で言っちゃダメ。僕、『コーマ・エンジェル』取締本部の
会長なんだから。

マスター (コップを用意し始める)

サブロウ マスター、丸ごと売ってくれないか？

マスター どうして？

サブロウ もう気軽にここに来れそうにないんだ。毎日、警備が5人ついてい
る。

マスター 出世したな。

サブロウ 望んだ出世じゃないから、困っちゃってるのよ。

テンコ サブちゃん、顔色悪いよ。やめた方がいいよ。

サブロウ 議長だろ。ね、ちよーだい。

マスター ……いいよ。

テンコ マスター。

マスター 太郎とは最近どうだ？

サブロウ あいつは詐欺師だ。あいつの名前は、もう、俺の前では言わないで
くれ。

テンコ そんなこと(言わない)

サブロウ 今、一杯、くれないか？

マスター いいよ。

サブロウ あいつは、結局、自分しか愛してないんだ。旬の時に群がったのは
誰だ？ 旬が終わって、どうして、あんなに簡単に捨てられるん
だ？ あいつは、結局、人を本当に愛したことなんかないんだ。

マスター はい。『コーマ・エンジェル』。

サブロウ マスター……。

コップに入った『コーマ・エンジェル』を飲み干すサブロウ。

優しい至福の顔にゆつくりと変わる。深い安堵の溜め息と共に

サブロウ ……これ飲むと、誰にでも優しくなれる気がするんだ。

テンコ ……誰にでもって？

サブロウ 誰でもさ。嘘つきも偽善者もどんなひどいことした奴にでも、優し
くなれる気がするんだ。

テンコ サブちゃん……

サブロウ マスター、俺、こんな物、持ってるんだぜ。

サブロウ、ポケットから銃を出して、カウンターのの上に置く。

全員(サブロウ以外) !

サブロウ 笑っちゃうよなあ。俺、みんなが俺の地位を狙ってるって思ってるんだ。本当はみんな、いい奴ばっかりなのにさ。……ケイちゃん。ケイ はい。

サブロウ ユタカと幸せになつてくれよ。
ケイ は、はあ……

サブロウ もうすぐ人間は変わるよ。全市民を集めるんだ。そしたら、人間は変わる。

テンコ 行きたくない人もいるでしょう。

サブロウ 僕は議長なんだよ。

テンコ えっ。

サブロウ あ、テレビ、つけてくれる。

テンコ、テレビをつける。

アキラが突撃している風景が現れる。そばにユタカ。

アキラ きえー！ とえー！ おうりあー！

ユタカ さあ、毎日、毎日、傷だらけで突撃を繰り返しているアキラにインタビューしてみましよう。アキラさん、いかがですか？

アキラ だめだろ。

ユタカ 感動的な一言です。アキラが壁に向かって突撃を始めて、もう気の遠くなる時間が過ぎました。さて、ここでお知らせです。みなさんもご存知のように、ついに来週の日曜、究極のイベントが行われることになりました。全市民の手で押し広げられた壁は、必ず、壊れます。私も、もちろん、私も、私も、私は参加しません！

アキラ ！

全員（ケイ以外）！

ユタカ 私は参加しません！

アキラ よく言った！ よし、飲みに行こう！

ユタカ 私は参加しません！ くそっ食らえです！ 俺はロッカーだぜ！

アキラ よく言った。さあ、飲みに行こう！

ユタカ 強制なんかまっぴらだぜ！ 俺は参加しないぞ！ 参加しないぞ！

アキラ イッツ・ショウタイム！

二人、去る。

テンコがテレビを切る。

サブロウ、カウンターに置いた銃を取り、

サブロウ ……殺す。

走り去る、サブロウ。

マスター ケイちゃん、まさか……

ケイ さあて、忙しくなるぞ。テンコちゃん、

テンコ は、はい。

ケイ テンコちゃんにお願いがあるの。今のユタカの発言の反応を知りたいの。市民にアンケート、取ってきてくれない？

テンコ えっ、いいけど。

ケイ 頼むね。オーケー、マスター、ちよつと出てくる。

走り去る、ケイ。

テンコ マスター、いったい……

マスター ……。

テンコ マスター、ずっと言おうと思ってたんですけど、太郎さん、

マスター なんだい？

テンコ 太郎さん、二階の会話を録音してるみたいなんです。

マスター 録音？

テンコ 盗聴って言うんですか、いろんな会話を録って、企画のネタにするみたいなんです。

マスター えっ、そんな……

太郎が階段の踊り場に現れる。

太郎 大変なことになったね。

マスター ああ。

テンコ どうです、体の方は？

太郎 ありがとう。休ませてもらったなら、ずいぶん楽になった。もともと、熱もないし、ただ、背中が痛いついていうだけなんだから、

マスター 奇妙な病気だな。

太郎 まったく。

テンコ 体がもう仕事をやめろって言うてるんじゃないですか？

太郎 えっ？

テニコ 今の仕事、太郎さんにはあつてないんですよ。

太郎 相変わらず、テニコちゃんはきついね。

テニコ そんな……。

太郎 じゃあ、俺は行くわ。自分の企画をやらないと。

マスター なんだい？

太郎 これさ。

と、iPadのようなもので、画面を見せる。

マスター・テニコ 『天使狩り エンジェル・ハンター募集中』。

テニコ なんですか、これ？

太郎 テニコちゃんが言ってただろう。神様はいないけど、天使は本当に

いる。だったら、天使を捕まえようっていう企画さ。

テニコ なんてことをするんですか！？

太郎 ただの遊びだよ。

マスター どうやるんだい？

太郎 簡単さ。募集したエンジェル・ハンターに銃を渡して、街を歩き回ってもらってるんだ。銃の中には特殊な液体が入っていて、それは天使の羽だけに反応する。究極のイベントだよ。目的があつて、終わりが無い。誰も傷つけない。完璧に無意味で、そのくせ、夢が……あ、痛てて、

マスター 痛むのか？

太郎 背中だけね。

テニコ 見てあげましょうか？

太郎 そうかい。すまないねえ。

テニコ、太郎の背中を見る。

テニコ ……。

太郎 どうしたの？

テニコ あの、太郎さん、あの、

太郎 なんだよ、やだなあ。背中見ただけで、ガンだなんて言わないでよ。

と、背中に手を回して、

太郎 あれ、このポッチ、なんだろ。

テンコ 羽です。

太郎 は？

テンコ 太郎さん、背中に羽が生えてきてます。

マスター えっ！？

マスター、天使1、急いで太郎の背中を見る。

太郎 やだなあ。悪い冗談はやめてよ。

マスター ……羽だ。

太郎 ……成田？

マスター 羽だ。

太郎 成田。

マスター 羽だ。

太郎 (成田)

マスター もういい。

太郎 うわあ！

マスター 太郎さん。

太郎 はい。

マスター 正直に答えて下さい。

太郎 はい。

マスター 昔、ニワトリと一緒に物質転送機に入ったことはありませんか？

太郎 ないよ！ 間違い科学者じゃないんだから！

マスター やっぱり。

太郎 俺、病院に行ってくる！

走り去る、太郎。

テンコ 盗聴なんかしてたから、バチが当たったんでしょか？

マスター えっ？

テンコ 私、ケイちゃんの仕事、してきます。

走り去る、テンコ。

マスター、ふと、虚空を見上げて、

マスター ……天使はまだいるかい？

天1 僕はここにいるよ。
マスター なにがあっても、この街にいてくれるだろうか。
天1 えっ……

ユタカが飛び込んでくる。

ユタカ ケイは？
マスター ちよつと出てくるって。
ユタカ そうか。マスター、あの、
マスター 見たよ。
ユタカ そう。そうか。……マスター、俺の携帯、楽屋に置いたままなんだ。ケイに連絡してくれないか？
マスター いいよ。(携帯を出そうとする)
ユタカ マスター、その前に俺にも『コーマ・エンジェル』くれないか？
マスター だめだ。……いや、いいよ。

天1、人の気配を感じて、お店のドアを押さえるアクション。
ユタカ、一気に『コーマ・エンジェル』を飲み干して、

ユタカ ……これで、よかったのかな。
マスター えっ？

突然、ドアが激しくノックされる。
マスターが導き、素早く、カウンターの奥に隠れるユタカ。

マスター 誰だい？
マリ 私！ マリ！

天1、ドアを押さえている力を抜くアクション。
マリが飛び込んでくる。

ユタカ マリ！
マリ ユタカ！ ユタカ、私の目を見て、
ユタカ もういいよ。
マリ いいから、見て！
ユタカ えっ…

マリ ……安心した。ユタカは狂ってない。

ユタカ 当たり前だろ。

マリ どうして？

ユタカ えっ、どうしてって……

マリ どうして私に言ってくれなかったの？ 言ってくれたら、私も一緒になっとうんとうんと盛り上げたのに。

ユタカ ……マリ。

突然、また激しくドアがノックされる。

ユタカ 二階に行こう！

天1が押さえているドアからチハルが銃を構えて飛び込んでくる。

チハル 天使はどこだ！ エンジェル・ハンター参上！

天1 ひえっ！

チハル ……あれ、太郎さんは？

マスター 帰ったよ。

チハル えっ、どうして？

マスター ちよつとね。

チハル ちよつとって？

マスター ちよつとは、ちよつとさ。

チハル ……そうね。あたしには関係ないもんね。

マスター えっ？

チハル ……マスター、あたし見たの。

マスター 何を？

チハル 見てはいけないもの。ううん。決して、見たくなかったもの。

マスター ユタカのテレビだろ。驚いたよな。

チハル ううん。決して見たくなかったものを見たの。

マスター 心張り裂ける事実かい？

チハル ……うん。

マスター もし、君が強ければ、心の中にしまっておくことだ。

チハル マスター、

チハルが言葉を続けようとした時、ケイが入ってくる。

ケイ ただいま。ユタカ、来てる？
マスター ……いや、まだ、来てない。
ケイ えっ、まだなの。どこだろ。携帯、つながらないのよ。……よし、準備しよう。

ケイ、階段を上がろうとする。

マスター ケイちゃん、何か飲むかい？
ケイ いい。あとで。時間がないの。

マスター、強引にケイをとめて、

マスター まあ、ビールぐらい飲めよ。これからの作戦の前祝いだ。
ケイ そう？

ケイ、足をとめ、携帯を出す。

チハル マスター、私が見たのはね、
マスター チハルちゃん、その格好はやめた方がいいと思うな。
チハル 病院のことよ。
マスター ！

マスターの手が止まる。
ゆっくりとチハルを見る。

ケイ マスター、やっぱりいい。時間がないの。

ケイ、そう言って階段を駆け上がる。
アキラが顔を隠して、忍者のように登場。却って目立つ。

アキラ やつらはいないね。
マスター ああ。
アキラ マスター、見たあ？
マスター 見た見た。
アキラ びっくりしたよなあ。あいつ、何考えてるんだろう。

マスター きつと、いろいろと考え過ぎてるんだよ。

アキラ 分かんないよなあ。おかげで、番組、打ち切りだよ。旅費もまだ足りないのに。さあ、ショウタイムだ。

マスター まだ、真っ昼間だぞ。

アキラ しょうがないなあ。じゃあ、飲むか。

チハル マスター、私、誰にも言つてないよ。

マスター 何か望みなんだい？

チハル 違うの。そんなことじゃないの。

マスター ……やっつと決心がついたよ。

チハル えっ？

階段をケイが降りてくる。

アキラ いよう、ケイちゃん！ あれ、どうかした？

ケイ ……なんでもない。

マスター ほい。

と、カウンターの上に液体の入ったコップを置く。

ケイ なに？

マスター 『コーマ・エンジェル』だ。

ケイ ……ありがとう。

テンコが入ってくる。

テンコ いたいた。ケイちゃん、すごいよ！ 街の反応。ユタカを見直した

って。この先、興味深々って感じ！

ケイ ありがとう。もう作戦はできてるんだ。

テンコ あたしもガンバルね。みんなで、サブロウの目をがつーんと覚ませうよ。

ケイ がつーんね。

テンコ どうしたの？

ケイ ううん。なんでもない。

アキラ よし！ なんかわかんないけど、前祝いだ。イツツ、

サブロウが飛び込んでくる。

サブロウ マスター、二階、探させてもらうよ！
マスター いないよ。
サブロウ いるさ！

マスター、カウンターから出ようとする。その前にサブロウ、素早く、階段を駆け上がる。

天1 行くな！

テンコ えっ？ 誰かなんか言った？

アキラ さあ、よく分かんないけど、イツツ・ショウタイム！

その瞬間、手をつないだユタカとマリが二階の踊り場に飛び出る。

後ろからサブロウが追う。

物音に驚き、一階の人々が階段を見上げる。

ユタカとマリ、ケイと目が合い、動きが止まる。

そのまま、全員、立ち尽くしストップモーション。

ゆつくりと白い羽が降ってくる。それは天使の羽だ。

天使1だけ、「見るなー！ 見るなー！」と叫んでいる。

暗転。

第八章

暗闇の中、天使の声が聞こえる。

天1（声）

それから、六日間が過ぎた。僕は瞳を閉じていない。僕は世界を見続けている。明日は、街の全市民が壁を押す日だ。その前の日、僕はテレビ局のスタジオにいた。

明かりつく。

そこはスタジオ。マリとサブロウがいる。ただし、天使1の姿は見えない。

サブロウ はい、マリちゃん、笑って笑って。

マリ サブちゃん、ごめん。今日はもう、

サブロウ 議長。まだ、明日のリハーサルが残ってるのよ。いいね。壁が壊れる。その時、マリちゃんが高らかにセリフ!

マリ ごめん、私、もう疲れちゃって、

サブロウ 違うでしょう。「この地平線の向こうに、必ずや私達の未来が待っています。ひとつになつて、壁を押しこたえてきた皆さんに感謝。私達は、ふたたび、ひとつになれたのです。そして、その切っ掛けを与えてくれた……その切っ掛けを与えてくれた、(マリに目で合図)

マリ サブちゃん。

サブロウ 議長でしょう。「その切っ掛けを与えてくれた議長に感謝。みなさん、うんと幸せになりましょう」自分で言うのと、やっぱり、照れるなあ。はい、じゃあ、初めから。

マリ サブちゃん、私、明日、精一杯、がんばる。

サブロウ ありがとう。じゃあ、最初のセリフから。

マリ だから、お願い。

サブロウ 「だから、お願い」？ 違うでしょう。最初のセリフは「みなさん！」でしょう。「みなさん！ この歴史的な日を迎えられたみなさん！」

マリ だから、お願い。テーマ曲、ユタカの曲にして。

サブロウ ……。

マリ ね、お願い。ユタカの曲、使つて。ユタカ、とびきり素敵な曲、作ったの。明日のイベントにぴったりの曲だから。

サブロウ ……そんな言葉は待ってないんだ。

マリ ユタカの曲、使つて。絶対、盛り上がるから。成功して、みんな、議長に感謝するのから。

サブロウ そんな言葉は待ってないって言ってるだろう!

マリ お願い!

サブロウ 待ってないんだ。

マリ 音楽!

音楽が流れ始める。

マリ サブちゃん。何して欲しい? ユタカの曲、使ってくれるなら、私、なんでもしてあげる。何して欲しい?

マリ、音楽にあわせて踊り始める。
挑発のダンス。

サブロウ、それを見ながら、

サブロウ なんでも？

マリ なんでも。

サブロウ それでいいの？

マリ それでいいの。

サブロウ ユタカは行方不明なんだぞ。逃げたんだよ。

マリ ユタカは私に会いに来る途中なの。ユタカの曲が流れれば、ユタカは現れるの。

サブロウ 俺に抱かれて、ユタカの曲を使ってもらって幸せなのか？

マリ サブちゃんに抱かれても、ユタカの曲を使ってくれるのなら幸せなの。

サブロウ 俺に抱かれながら、ユタカのことを思って平気なのか？

マリ サブちゃんに抱かれても、ユタカのことを思えば平気なの。

サブロウ 痛くないのか？

マリ 痛くないの。

サブロウ 俺は痛い。

マリ えっ？

サブロウ 俺は痛い。身も心も張り裂けるぐらい痛い。ユタカのことを考えているマリちゃんを見るだけで、全身を切り刻まれるように痛い。痛くて痛くて、我慢できない。

マリ 痛みなんて、すぐに忘れるわ。

マリ、サブロウに近づこうとする。

サブロウ、銃を出してマリに向ける。

マリ、ひるまず、サブロウに近づく。

マリ 何して欲しい？ なんでもしてあげる。

サブロウ やめるんだ！

マリ なんでもしてあげる。

銃を構えるサブロウ。

近づくマリ。

暗転。

天1（声）そして、僕は、ユタカとケイのそばにもいた。

明かりつく。

ユタカとケイがいる。天使1の姿は見えない。

ユタカはうろろと室内を歩いている。

ケイ よし、計画ができたよ。いい？

ユタカ おう。

ケイ まず、確認するね。明日、イベントには参加しない。

ユタカ おう。で、すぐそばでコンサートをぶちかます。いいねえ。……

俺、ちよつと買い物行ってこようかな。

ケイ どうして？

ユタカ だって、コンサートの準備とかあるしさ、電話もちよつと、

ケイ ……私の携帯、貸すよ。いない方がいいなら、トイレ、行ってようか？

ユタカ いや、今はいいよ。で？

ケイ で、そのコンサートなんだけど、ただのコンサートにはしない。ここからね、

ユタカ ああ。で、どんなコンサートだ？

ケイ 傷だらけのコンサート。

ユタカ いいねえ。で、なんなの？

ケイ 自殺未遂するの。

ユタカ 自殺未遂！？

ケイ そう。今日のイベントに死をもって抗議するぞっていうアピールよ。なるほど。

ケイ システムへの抗議のためなら、死ぬことも平気なロッカーなの。分かるでしょう。

ユタカ 痛いだろうね。

ケイ そうなのよねー。

ユタカ よし、ガンバルよ。

ケイ それだけじゃないの。

ユタカ と言うと？

ケイ 明日だけだと、いかにもってカンジでしょう。

ユタカ えっ？ まあな。

ケイ 昨日の夜、何者かに襲われて、私は殺されそうになった。だが、私

は負けない。死にそんな傷を受けても、システムを倒すためなら私は今、歌うっていうストーリーなの。どう？

ユタカ 相変わらず、考えるね。

ケイ 考えすぎるのかもね。

ユタカ いや、いい案だよ。えっ……死にそんな傷？

ケイ そう。

ケイ、ナイフをカバンから出す。

ユタカ ひよえっ。

ケイ 大丈夫。これは、明日のためのナイフ。

ハンカチをナイフの先に当てる。

ナイフの先から赤い液体が飛び出て、ハンカチが血に染まったように見える。

ケイ ほらっ。

ユタカ 科学だね。

ケイ でしょう。テンコちゃんに作ってもらったの。

ユタカ 何から何までかたじけない。

ケイ いいってことよ。明日は興奮して、何が何だか分からなくなるでしょう。だから、このトリックナイフね。

ユタカ うむ。まかせなさい。きっと私は完璧に演じ切るであろう。

ケイ で、

ケイ、もう一本のナイフを出す。

ケイ これが、今日のためのナイフ。

ユタカ ……切れそうだね。

ケイ 切れる方が痛くないの。

ユタカ そういうものか？ ……で、どこに傷を受けるの？

ケイ 胸。

ユタカ 胸！？

ケイ そう。私を襲った何者かに真正面から向かっていったの。だから、胸に光る無数の傷跡。

ユタカ 無数！？

ケイ 観客は絶対、興奮するね。

ユタカ た、たしかに。

ケイ 大丈夫。軽く、ひどくするから。

ユタカ 軽く、ひどく？

ケイ 子供の頃、転んでヒザを擦りむいた傷って、浅いくせに、物凄く目

立ったでしょう。

ユタカ ああ。アスファルトなんかで、こすった時な。

ケイ あの要領。

ユタカ ……あれって痛かったよ！

ケイ がまん、がまん。ほれ、胸、まくつて。

ユタカ はい。

ケイ いくよ。

ユタカ おう！

ユタカ、思わず、ナイフを避けて叫ぶ。

ユタカ ……うわあ！

ケイ 動くと危ないって。

ユタカ ちよつと貸して。

ケイ だめ。こんなものは、勢いつけないとダメなの。

ユタカ ちよつと貸してよ。

ケイ だめだって。

ユタカ いいから。

二人、もみ合う。

ナイフをめぐる幸福な戯れ。

やがて、二人、ふとナイフを見つめて動きが止まる。

ユタカ ……死のうか。

ケイ ……ユタカってどこまで本気なのか、まだ分かんない。

ユタカ ……俺っていい加減だからね。

背中を見せるユタカ。

ナイフを握りしめ、その背中を見つめるケイ。

ケイ、そのまま、ユタカの背中に近づくが、次の瞬間、動きをとめる。

ケイ ユタカがビッグになるもつと確実な方法があるよ。
ユタカ なに？

ケイ 私を殺すの。

ユタカ えっ……

ケイ そしたら、本物のロッカーになる。伝説のね。

ユタカ そうだね。

ケイ そしたら、私もやっと思えなくてすむし。

ユタカ えっ？

ケイ 私ね、ひとつ気付いたことがあるの。

ユタカ なに？

ケイ ロッカーって、よく世界と闘うって言うでしょう。

ユタカ ああ。

ケイ でも、世界って結局、自分のことなのよね。

ユタカ えっ？

ケイ だから、世界と闘うってことは、自分を傷つけることなのよね。

ユタカ そうかな。

ケイ 正しく世界と闘った人は、正しく自分を傷つけるの。でも、無茶苦茶に世界と闘った人は、無茶苦茶に自分を傷つけるの。

ユタカ それ、俺のこと？

ケイ ユタカは違うよ。ユタカは正しく闘ってるよ。

ユタカ えっ？

ケイ いいの、いいの。

ユタカ さ、ぱあつと景気よくやっちくりい！ どっちにしろ、世界と闘うしかないんだろう。世界から逃げ出したら、

ケイ 自分から逃げ出すことになるし、

ユタカ 世界を憎んだら、

ケイ 自分を憎むことになるし、

ユタカ ビッグになったら、うんとぜいたくしような。

ケイ 痛いぞー。

ケイ、ナイフをほんの少し、ユタカの胸に当てる。

ユタカ 痛い！

ケイ そんなに痛い？

ユタカ 自分でもやってみろよ。

ケイ いやよー。

ケイ、ちこつとナイフを胸に立てる。

ケイ なるほど。こいつは痛いや。

ユタカ だろう。な、俺たち、他人から見たら、単なるバカかもな。
ケイ ほんとね。

二人、笑いあう。

次の瞬間、ケイ、自分の胸にナイフを突きたてる。

ユタカ ……ケイ！

ケイ ……オーケー、オーケー、イツツ、ノープロブレム……

ユタカ ケイ！

暗転。

ユタカ（声） ケイ！

天1（声） そして僕はお店の一階にもいた。

明かりつく。

そこは、お店。

マスターとテンコ、アキラがいる。

テンコ 二階、静かですね。

マスター ああ。

アキラ のぞいてこようか？

マスター いいよ。（時計を見て）二人とも、今日はここまで。ごくろうさま
ん。

テンコ マスター

マスター え？

アキラ 何するつもりなの？

マスター 何って何も。

テンコ 嘘。

アキラ ほんとのこと、言ってよ。

マスター ほんとのことだよ。

アキラ マスターは嘘が下手だね。
マスター ……アキラ、この街を出たいか？
アキラ もちろん。
マスター 出てどうする？
アキラ 出てから考える。
マスター ……頼みがある。
アキラ はい。
マスター 桃が食べたい。
アキラ は？
マスター 大切な話と関係があるんだ。
アキラ 分かった。桃だね。
マスター とびつきり美味しい奴ね。
アキラ よし！ イッツ・シヨウタイム！ からの

走り去る、アキラ。

マスター テンコちゃん。
テンコ はい。
マスター いちじくが食べたい。
テンコ 私は引つ掛かりませんよ。本当のことを言ってくれるまで、ここを動きませんからね。
マスター 本当になんでもないよ。
テンコ マスター、どうして、本心は誰にも喋らないんですか？ マスターのそういう態度が、こんにちのお店の経営悪化にもつながっているんですよ。そもそも、マスターは、
マスター テンコちゃん、頼みがある。
テンコ はい。
マスター もし、明日、予定通りイベントが開かれるようだったら、この液体を街の貯水池に投げ入れてくれ。

マスター、小さなビンをカウンターの中から出す。

テンコ なんです？
マスター 『コーマ・エンジェル』の原液だ。
テンコ 原液……
マスター 通常の一万倍の効果がある。

テンコ 『コーマ・エンジェル』ってなんなんですか？
マスター テンコちゃんなら、舐めてみれば分かるよ。
テンコ えっ……

テンコ、ビンの中に指を一本入れて液体に浸し、そして、舐める。

テンコ ! ……これは。

マスター そう。昔、よく流しただろう。

テンコ まさか、そんなことって……だって、これは、

マスター そう。天使の涙だ。

テンコ どうして、マスターが、

マスター 僕の涙だよ。僕が天使の時代に流したね。

テンコ えっ……。

マスター 知っているだろう。天使の涙は、人間を幼児のレベルに戻す、一種の知能退行薬の力があるんだ。

テンコ どうして言ってくれなかったんですか？

マスター 今、言ったぞ。

テンコ どうして、どうしてマスターは人間になったんですか？

マスター ……もちろん、人間の女性に惚れたからだよ。

テンコ どんな人でした？

マスター 賢い人だったよ。

テンコ 賢い人。

マスター 完璧な嘘がつけるほど、賢かった。

テンコ えっ。

マスター (時計を見て) さ、行くんだ。

テンコ マスターは何をするんですか？

マスター 僕は壁を壊すのを阻止する。

テンコ どうやって。

マスター なんとかするさ。

テンコ でも、

マスター 僕達の体は、放射線に対する免疫があるからね。

テンコ えっ？

マスター 最悪の場合、僕達の血を輸血すれば、壁が壊れても、きっとみんな助かる。

テンコ 本当ですか？

マスター 元天使という唯一のメリットだ。たぶん、これが。
テンコ えっ。
マスター さ、行くんだ！

テンコ、店から出る直前、

テンコ マスター、このビンを投げ込めば、また、あの時代が戻って来るかな？

マスター ……ああ、きつと戻ってくるよ。

テンコ うん。

テンコ、走り去る。

すぐに太郎が入って来る。

太郎は背中が少し盛り上がっている。

太郎 マスター！ お元気ー！

マスター いらつしやい。あれ、サブロウは？

太郎 えっ、先に行つといてって、電話したんだけど。

マスター 太郎、まさか、

太郎 大丈夫だよ。マスターの頼みなんだ。必ず、来るよ。

マスター すまん。口、きいてもらって。

太郎 で、なんなの？

マスター ああ。お前たちの仲直りパーティーだよ。もう二階に準備してる。

太郎 えっ、気、使っちゃって。

マスター 来るまで、ここで飲んでるか。

マスター、太郎にビールを渡す。

太郎 久し振りだね。

マスター えっ？

太郎 マスターと二人きりで話すの。

マスター そうだな。

太郎 なんの話、しようか。仕事の話なんかしたくないし、うん、進化の話。

マスター 久し振りだな。

太郎 ずっとしたかったんだよ。

マスター 忙しさは罪だね。

太郎 進化はウイルスのせいで起こるっていう話、知ってる？

マスター ウィルス？

太郎 魚類の一部にウイルス性の病気が蔓延した。そして、魚の体にはある変化が起こった。

マスター まさか、病気で足が生えたっていうのかい？

太郎 感染した魚には四本の足が生え、陸に上がるという『大進化』が実現したんだ。

マスター 面白いSF小説だな。

太郎 事実だよ。レトロウイルスの遺伝子にあるRNAが、感染者の遺伝子に情報を与え、遺伝子自体を組み換えたんだ。

マスター なに？

太郎 この街で、背中に羽の生える病気が流行しているんだ。

マスター えっ

太郎 もう七割だよ。

マスター だから何なんだ？

太郎 僕達は進化を始めたんだよ。

マスター ……何が言いたいんだ？

太郎 僕達は天使になるよ。

間

マスター 何を言ってるんだ!？

太郎 人間から天使への『大進化』が始まったんだよ。

マスター 自分が何を言ってるのか、分かっているのか!？

太郎 爆弾は爆発しないよ。

マスター えっ。

サブロウが二階から現れる。

サブロウ 二階の抜け道を使わせてもらったよ。

マスター サブロウ……

マスター、ポケットから小さな箱を出し、ボタンを押す。

サブロウ それが、スイッチかい？

マスター えっ？

サブロウ、手には小さな黒箱を持っている。

サブロウ 爆弾は処理したよ。

マスター ……。

太郎 マスター！ どうして、病院を爆破したんだ？

マスター なんの話だ。

サブロウ、目で合図する。

二階の奥から、チハルが現れる。

チハル マスター、あたし……

サブロウ どうして、俺たちを殺そうとしたんだ！

太郎 マスター、なにかの間違いだろう！ どうして二階に爆弾が仕掛けられているんだよ。

マスター ……言っても分からないさ。

太郎 マスター、俺たちはやっと進化を始めたんだよ！

サブロウ マスター、明日には壁は壊れるんだよ！

太郎 どうして！？ どうしてだよ！？

マスター ……いろんな悲劇を見てきた。始まりはいつも、ささいなことだったんだ。

太郎・サブロウ マスター！

マスター ……行こうか。

太郎・サブロウ えっ。

マスター 警察が待ってるんだろう。

マスター、歩きかける。

その時、アキラが走ってきて、サブロウの持っている爆弾をかっさらう。

サブロウ えっ！？

アキラ、階段の途中まで駆け上がり、くるりと振り向き、

アキラ マスター！ 桃の缶詰しかなかった！

と、小包を放り投げる。

サブロウ 待て！

サブロウ、銃を抜く。

マスター やめろ！

マスター、サブロウの前に立ちはだかる。

火を吹く銃。

マスター、倒れる。

アキラ・サブロウ えっ！？

太郎 マスター！

二階の奥に走り去るアキラ。

階段を駆け上がるサブロウ。

暗転。

天1（声） そして、夜が明け、当日がやってきた。

テレビの大きなフレームの中に、演説をしているサブロウが見えて来る。

声は聞こえない。動きもスローモーションで行われている。

横にマリの代わりにチハル。太郎もいる。

鐘が鳴る。

天1（声） マリの家のテレビはついたままだった。そばのベッドには、携帯

電話を握りしめたままのマリがいた。仕事以外の着信は記録されていなかった。テーブルの上には、睡眠薬のビンが二つ、空になって転がっていた。

演説を続けるサブロウ。

それを見つめている太郎。

天1（声） コンサートは突然、始まった。人々の興奮した無責任な目が、そ

の男に集中した。

ユタカが現れる。ユタカは歌を歌っている。声は聞こえない。動きもスローモーションで行われている。

ナイフを取り出すユタカ。

高々とナイフを掲げ、ゆっくりと自分の胸に突き刺す。

天1（声）

そして、人々が壁を押ししている最中、一人の男がサブロウのそばに駆け寄った。そして、

アキラがサブロウの側に駆け寄る。

手には黒箱を持っている。アキラ、口を開く。「イツツ・シヨウタイム」と唇が読める。

アキラ、黒箱を地面に叩きつける。

その瞬間、テレビが故障したようなノイズが鳴り響き、人々の動きが凍りつく。

そして、暗転。

ノイズの音が消える。

天使1の声が聞こえて来る。

同時に文字が映される。

天1（声）

人々の力と爆発の力が奇跡的に一致した瞬間、壁は壊れた。そして、高濃度の放射線が大量に街に降り注いだ。そして、人々が死んで、この街の歴史が終わった。無数に横たわる人々の死体には、小さな羽が生えていた。それはまるで、天使の死体ようだった。僕は、僕は、どこへも行かない。

スライドには、最後の文章は、次のようになる。

『僕は、僕は懐かしい受け持ち区域に戻ることにした』

明かりつく。

そこはお店。

テンコが一人、ぼつんといる。テンコ、カウンターを拭く。

ふと、手をとめて、顔を上げ、

テンコ

天使番号H 8623。……いますか？ まだ瞳は、世界を見つめ

ていますか？ あなたの瞳は、まだ世界を見つめていますか？

テンコ、目を閉じる。

音楽が聞こえてくる。

そして、一人一人がテンコの空想の中に登場する。

マスターがカンウターの中から出てくる。

飛び出てくる太郎とサブロウ。

ステップを踏んで登場するケイ。

階段を手をつないで降りてくるユタカとマリ。

楽しそうにチハル。

元氣一杯にアキラ。

みんな次々に入ってくる。

そして、幸福なパーティーが始まる。

マスター、シャンパンを抜く。

その飛沫が空間に漂う。

全員、ふと、顔を上げて、その小さな雫（しずく）を見つめる。

そして、微笑みながら、

全員

おや、そこにいるね。さあ、握手をしよう。

全員、見えない天使に向かって握手の手を差し出す。

その姿勢のまま、暗転。

完